

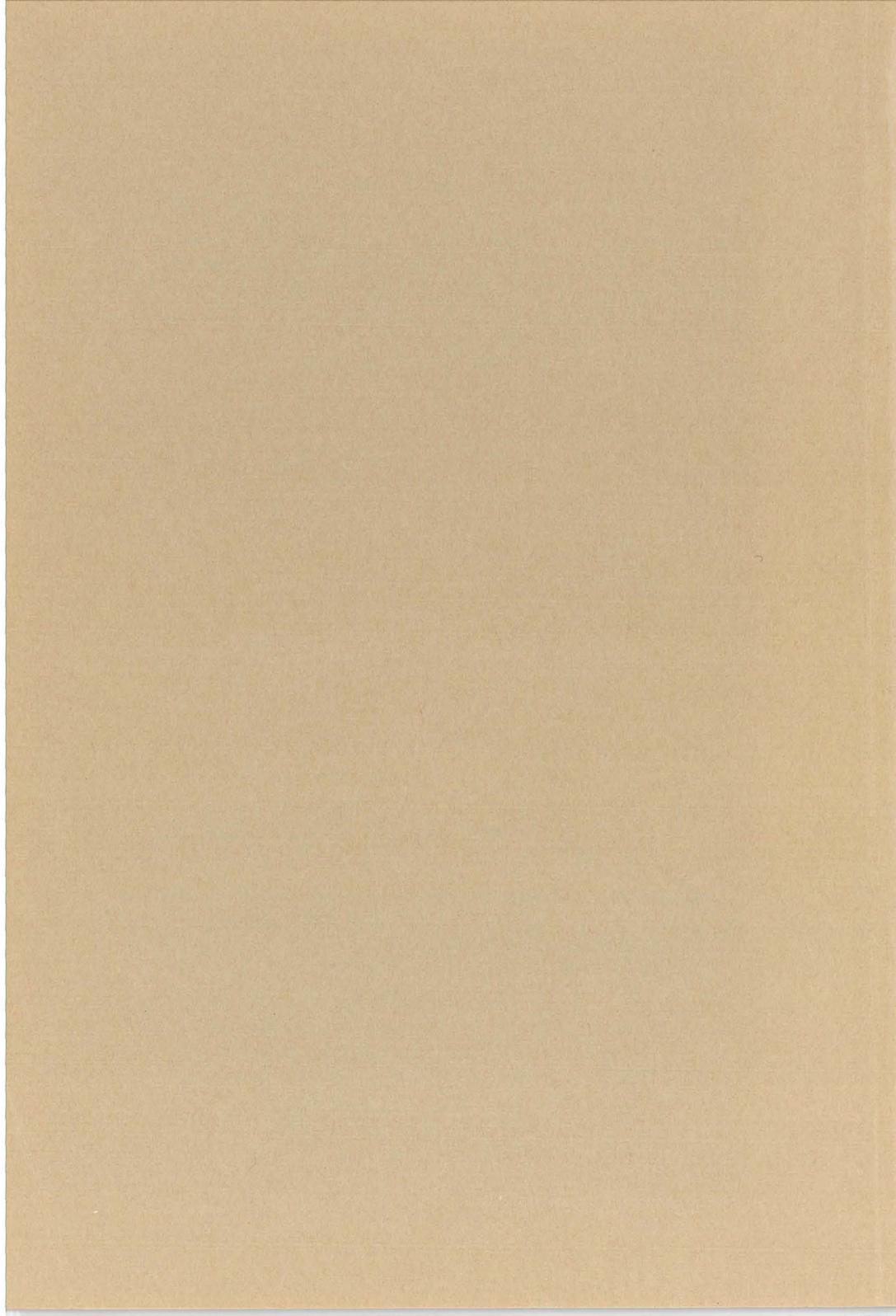
ISSN 1344-476X

財団
法人

東洋文庫年報

平成 13 年度

財団法人 東洋文庫



目次

I	平成13年度の東洋文庫	1
II	図書事業	4
1.	資料の収集	4
2.	資料の整理	5
3.	資料の利用と複写サービス	6
4.	書庫資料の見学と研修	10
5.	資料の保存整理と複製	11
6.	業務の機械化	12
7.	書庫内資料と書架スペース	13
III	研究事業	14
1.	調査研究	14
i	日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究	14
ii	一般調査研究	20
iii	特別調査研究	24
iv	その他の平成13年度研究助成金による事業	25
v	研究委員会	28
2.	学術図書出版	29
3.	講演会	30
4.	研究会（東洋文庫談話会）	32
5.	学術情報提供	32
i	研究者養成	32
ii	研究者の交流および便宜供与のサービス	33
iii	研究会等への会場提供サービス	38
iv	研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	38
v	参考情報提供サービス	38

6.	職員の研究業績	39
	付表「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」	58
IV	業務報告	61
1.	総務報告	61
2.	人事報告	63
3.	会計報告	65
V	役職員名簿	67
1.	役員	67
2.	東洋学連絡委員会委員	68
3.	名誉研究員	68
4.	職員	69
5.	臨時職員	73
VI	財団法人東洋文庫附置	
	ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	74
1.	ユネスコ協力事業	74
2.	学術情報活動—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—	75
3.	コンピュータネットワーク事業	79
4.	重要文献の研究・保存事業	
	—アジア重要文化財（文献）の研究・保存—	80
5.	業務報告	82
6.	役職員名簿	85

I 平成13年度の東洋文庫

以下は、平成13年度を中心とした(財)東洋文庫の事業報告の要点である。

まず、役員・職員の異動に触れるが、その冒頭に記さなければならないのは、山本達郎理事の逝去である(享年90歳)。山本理事は昭和30年6月10日に就任されてより平成13年1月24日に逝去されるまで、実に足かけ47年にわたり、東洋文庫及びその附置するユネスコ東アジア文化研究センターの発展と事業の遂行のために終始絶大な提言と貢献を惜しまれなかった。昭和30年代前半より東洋文庫の事業費に対して、文部省より補助金の増額支援を仰げるようになったこと、平成元年度に生化学工業株式会社社長水谷當稱氏より、東南アジア資料の収集と充実のために5千万円の寄付を受けるに至ったこと、などは山本理事の熱意溢れるご尽力のほどを語るほんの一端である。同理事は東洋文庫を深く理解し愛され、書庫内に足を運んで諸資料を求め繕くことを日常の楽しみとされていた。同理事の生前よりのご希望に沿い、平成13年10月に山本家より旧蔵書1万8千冊、及びその整理費を含めた5千万円の寄付を受け、すでに整理・配架・目録刊行に向けての作業がすすんでいる。

つぎに、平成13年6月5日の理事会をもって、平成2年4月1日より足かけ12年にわたり文庫運営の重責を果たされた北村甫理事長が、役員若返りのため勇退し、これとともに林健太郎理事、木田宏理事、田中正俊理事、中嶋敏評議員、田部文一郎評議員、日比野丈夫評議員が勇退した。また同理事会で新理事長に斯波義信理事が就任、新しく理事に西田龍雄京都大学名誉教授・日本学士院会員、田仲一成東京大学名誉教授・日本学士院会員、草原克豪拓殖大学副学長が選任され、任期継続中の理事、監事を含め、役員総数は14名(旧16名)となった。評議員では、定例の東京大学、京都大学、早稲田大学、慶応大学各学長のうち、東京大学について蓮實重彦前総長から佐々木毅新総長への交替があり、また新しく評議員として榎原稔三菱商事会長、池端雪浦東京外国語大学学長、後藤明東京大学東洋文化研究所教授、間野英二京都大学教授、岸本美緒東京大学教授が選任され、任期継続中の評議員を含め、総数は14名(旧12名)となった。なお、図書部長は6～8月は斯波義信理事長が兼任したが、平成13年9月より田仲一成理事が就任した。職員の異動としては、平成13年6月に総務部の吉田男佐武氏、同7月に研究部の本庄比佐子研究員がそれぞれ定年を迎えて退職し、平成14年3月に図書部司書(国立国会図書館支部)・東洋文庫兼任研究員であった志茂碩敏氏が定年退職し、同月、研究部研究員であった福田洋一氏が東谷大学助教授への転職のために退職した。

事業体としての東洋文庫は、直近の、また中長期にみても、適切な対処を迫られている課題に直面しており、なかでも緊急性を要する三つの懸案の問題がある。(一)平成15年3月末に迫っている附置ユネスコ東アジア文化研究センターの終結処理を円

滑にすすめる。(二) 財政を見直し健全かつ適正な基盤に導く。(三) 2年後に控える創立80周年を記念する事業として八十年史・展示会・記念講演会の準備をすすめる。この三つの具体的な問題は、基層において通底しており、研究部・図書部・総務部の区分をのりこえ、全体を有機的に結び合わせながら、寄付行為以下の諸規程に掲げる事業目標をいっそう活性化させる方向で臨まなければならない。

(一) については、東洋文庫に附置されてから41年におよぶその歴史及び内外への貢献を考えれば、まことに遺憾というほかはない。しかしユネスコ本部の事業企画の変更、これを承けての文部科学省当局の指示(平成11年)のもと、前年度につづき万策を尽くして対応の方策を講じたが、ついに終末の年度を迎えるという事情がある。東洋文庫としては円満な終結に導くべく適正な措置を講ずることになった。

(二) については、基金運用の果実が近年の低金利のもとに置かれ、自己財源上の収益が期待できない以上、補助金・寄付金・自己財源を含めた財政を合理化し、事業の遂行に万全を期する方向で運営しなければならない。平成13年度の財務は支出の節省と合理的な収支を掲げて、当面できるかぎりの努力を試みた。

(三) 八十年周年記念の事業は、この機を逸すると次は百周年という区切りに至ることになる。またこれまで周年史としては十五年史があるのみなので、記録に留めるべき事業内容を、コンパクトにまた内容のあるものにまとめておくべきであると考えている。この事業は東洋文庫の発足の由来、事業の原点、その後の成長発展および危機打開のあゆみを明確にし、文字通り温故知新して未来を展望するための足がかりとなることをめざしている。たまたま、同じように内外の東洋学研究に貢献しているフランス国立極東学院が2000年1月に創立百周年を迎えた。同院はこれまでの実績、現在の使命、学術の体系付けについて自己点検をしつつ、パリ本部ほか東洋文庫内に置くもの(1999年～)を含む17の支部を擁している。米国のハーバード・エンチン図書館もちょうど創立75周年を祝い、蔵書は百万にちかい。東洋文庫がたんに国内最古の東洋学機関であるにとどまらず、世界でも屈指とされるこれまでの声望を維持し発展するためには、どのように機能しその成果を発信してゆくべきか、周年事業はそうした前向きなスタンスに立つための節目となるにちがいない。

図書館としての東洋文庫は、限界にちかい書庫スペース、図書資料収集予算の絶対的な不足という懸案の問題にとどまらず、蔵書資料の効率的な活用と公開・サービスにつながるデータベース化の推進という時勢の求めにも直面している。国立国会図書館関西館が平成14年11月に開館予定の運びとなり、これに伴い同本館のアジア関係の雑誌類は関西館に移り、また本館の「アジア資料室」はその規模を縮小すると聞き及ぶ。整理・閲覧の業務において国会図書館の支部として運用されている東洋文庫は、こうした情勢変化に即応・対処してゆく青写真を持たなければならない。

研究部を窓口として推進されてきた、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所に蔵する内陸アジア出土の文書(敦煌文献等マイクロフィルムで約

25万齣)の購入は、所期の目的をほぼ達成し、また研究部における「現代イスラーム世界の動態的研究」「イスラーム関係史料の収集と研究」も終了し、厩大な新規の資料が収集された。これらを整理目録化し、『岩崎文庫貴重書書誌解題』(現在Ⅰ-Ⅲ刊行)の一例にみられるごとき解題にまでもたらずことは、各種研究資料分野別のアーカイヴィストを擁する図書館としての責任である。同時に80周年を目前にしたいま、所蔵資料を全体としてみて、その特色がとりわけどこに存し、どのような知識の増進に対応でき、また過去にどのような知識の発信がなされてきたかを明示して、未来展望をひらくべき時期にきている。

これに関連して、いますすめているデータベース化の方策は、結局は内外のリサーチ・ライブラリーとの間で、汎用性、互換性、公開性があり、一貫性のある書誌データをなるべく早期に形成することに連なる。平成13年度はこうした目標にむけての基礎的な努力を開始した。(斯波義信)

Ⅱ 図 書 事 業

1. 資料の収集

(1) 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は18,036,427円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)
一般調査研究資料	483	1,540	2,023
一般研究資料	1,007	41	1,048
中央アジア特別研究資料	133	203	336
東アジア特別研究資料	727	0	727
西アジア特別研究資料	0	315	315
マイクロ資料	2	5,949	5,951
チベット特別研究資料	0	2	2
近代中国特別研究資料	560	19	579
計	2,912	8,069	10,981

主な購入図書としては、以下のものがある。

統修四庫全書 卷1301—1540 集部	240冊
西安碑林全集 第15—25函	11函
嘉慶道光兩朝上諭档 (全)	55冊
中国明朝档案総匯 (全)	101冊
甘肅藏敦煌文献 (全)	6冊
新編中国地方志叢書	56冊
エジプト収集アラビア語資料	461冊
インド収集南アジア諸語資料	830冊
パキスタン収集南アジア諸語資料	106冊

(2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)	国内 (冊)	国外 (冊)	計 (冊)
単 行 本	1,410	613	2,023	1,003	632	1,635
定期刊行物	2,571	676	3,247	2,576	1,690	4,266
非図書資料	36リール	319リール	355リール	0	0	0
計	4,017	1,608	5,625	3,579	2,322	5,901

主な受贈資料としては、以下のものがある。

「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」班寄贈東北アジア関係資料		826冊
北村甫前理事長寄贈	中央アジア・チベット関係資料	91冊
イラン・イスラム共和国大使館寄贈資料 第2期		248冊
Prof. T. Senga 寄贈	中央アジア関係資料	12冊
民族文化推進会寄贈	韓文資料	65冊
中井猛氏寄贈	アラビア関係資料	15冊
Ilhan Sahin 氏寄贈	トルコ語資料	5冊

資料室では上記以外に重複図書等の有効活用を図るため、海外の諸機関に交換用の図書リストを提供している。

本年度は交換の要望・申出はなかった。

(3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は867,731冊で、和漢書496,527冊、洋書341,458冊、複写資料29,746冊である。

2. 資料の整理

(1) 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	2,208冊
欧米語図書	817冊
アジア諸言語図書	1,684冊

整理したおもな図書

- | | |
|-------------------------------|-------|
| (1) 新編中華人民共和国地方志叢書 | 131冊 |
| (2) 続修四庫全書 卷801-1300 史部・子部 | 500冊 |
| (3) 咸豊同治兩朝上諭档 | 全24卷 |
| (4) 西安碑林全集 | 1-14函 |
| (5) 護雅夫氏旧蔵中央・西アジア関係図書 (除ロシア語) | 119冊 |

(2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録』 第49号 平成14年3月刊 B5判 97頁

(3) 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文34タイトル、欧文14タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	607	225	2,482	658
購入	158	90	1,431	213
小計	765	315	3,913	871
計	1,080		4,784	

(4) 新聞

本年度は前年度同様18種（何れも中文）を受入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

(1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は210名で、内訳は教職員59名（外国人27名）、研究機関関係者11名（外国人4名）、大学生43名（外国人12名）、大学生91名（外国人8名）、その他6名であった。

閲覧開館日は230日、利用者数は3,308名、利用資料数は50,628冊で、詳細は下記のとおりであった。

東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ1,322名、4,432冊であった。

開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成13年 4月	19 (日)	188 (人)	10 (人)	△13 (人)
5	20	254	13	△13
6	20	222	12	△16
7	20	271	14	△27
8	22	363	17	△3
9	18	267	15	△7
10	21	308	15	5
11	19	393	21	125
12	17	319	19	33
平成14年 1	17	224	14	50
2	18	238	14	14
3	19	261	14	64
計	230	3,308	15	212

閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成13年 4月	113	205	496	3,004	113	174	722	3,383	179	338
5	150	332	569	2,966	222	420	941	3,718	186	313
6	135	287	445	2,088	144	345	724	2,720	136	△215
7	147	323	501	3,458	194	552	842	4,333	217	△1,068
8	163	381	894	5,739	347	959	1,404	7,079	322	△499
9	153	553	600	3,443	255	586	1,008	4,582	255	△69
10	226	568	528	2,562	187	368	941	3,498	167	△2,470
11	319	1,215	605	3,277	191	664	1,115	5,156	272	907
12	272	1,211	549	2,705	256	818	1,077	4,734	279	677
平成14年 1	131	373	380	2,245	218	518	729	3,136	185	358
2	153	481	572	4,067	164	298	889	4,846	270	932
3	151	454	412	2,389	335	600	898	3,443	182	△23
計	2,113	6,383	6,551	37,943	2,626	6,302	11,290	50,628	221	△819
比率	12.60%		74.90%		12.50%		100%			

(2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齎数	紙焼提供枚数	フィルム提供齎数
431	34,783	40,605	583

電子複写

申込件数	提供枚数
833	44,628

なお、平成14年1月1日より「文献資料複写規程」を改訂・実施した。

(3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて902件であった。

(4) 資料の貸出

博物館、美術館などが主催しておこなう展覧会への資料貸出は6件で、詳細は次のとおりである。

展覧会への資料貸出一覧

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	特別展「異国を観る Seeing the Other」	国際基督教大 学博物館 湯浅八郎記念 館	平成13.4.4 ～7.6	国際基督教大学 湯浅八郎記念館	『万国航海図』 はじめ17点19 冊5舗2巻
2	第50回特別展 「描かれた『異国』『異 域』 —朝鮮人、琉球人、 アイヌ民族」	大阪人権博物 館	平成13.4.17 ～6.10	大阪人権博物館	『琉球画記』 1 冊
3	平成13年度第1回特別 展 「アオギスのいた海」	浦安市郷土博 物館	平成13.6.23 ～7.29	浦安市郷土博物 館	『海幸』 はじめ2点3冊
4	東海道四百年祭特別展 「みしま～三嶋暦から 三島茶碗へ」	特別展「みし ま～三嶋暦か ら三島茶碗 へ」実行委員 会	平成13.9.21 ～10.22	三嶋大社宝物館	『古刊假字曆』 2葉
5	豊橋市二川宿本陣資料 館 開館十周年記念特別展	豊橋市教育委 員会	平成13.10.6 ～11.18	豊橋市二川宿本 陣資料館	『名陽見聞図 会』 はじめ2点2冊

	「琉球使節」展				
6	佐野美術館開館35周年 記念・ 三島市制60周年・ 静岡新聞社50年・ SBS 静岡放送50年・ 東海道四百年祭 特別展「葛飾北斎」展	財団法人佐野 美術館 三島市 三島市教育委 員会 静岡新聞社 SBS静岡放送	平成13.10.27 ～11.26	財団法人佐野美 術館	『風俗狂歌摺物 帖』 はじめ3点1帖1 冊1舗

4. 書庫資料の見学と研修

申請は26件あり、349名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。
なお、このほかに当日申込の書庫見学が50件131名あった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
1	平成13年 4月11日	中渡 明弘	国立国会図書館研修生	30	書庫内資料見学
2	4月16日	林 佳代子	東京外大トルコ語専攻学生	22	〃
3	5月17日	関 幸	前橋陸軍予備士官学校戦友会	28	〃
4	5月25日	田中 正俊	中国史研究者	6	〃
5	5月30日	佐藤 次高	東京大学東洋史専攻学生	16	〃
6	6月12日	金井 富美	国立国会図書館研修生	17	〃
7	6月13日	三浦 徹	お茶ノ水女子大学・学習院大学学生	30	〃
8	7月18日	三菱広報委員会	三菱ゆかりの地見学会参加者	33	〃
9	7月19日	内山 雅生	宇都宮大学内山ゼミ生	7	〃
10	7月27日	白井佐知子	東京外国語大学学生	12	〃
11	8月6日	古谷 昭弘	早稲田大学学生	1	〃
12	8月27日	三菱商事広報部	東京都教育委員会	12	〃
13	9月6日	三菱経済研究所	三菱経済研究所役職員	4	〃
14	9月27日	東大東洋文化研究所	漢籍整理長期研修生	6	〃
15	10月2日	門脇 広文	大東文化大学門脇ゼミ学生	22	〃
16	10月29日	小名 康之	青山学院大学学生	12	〃
17	10月30日	梅村 坦	日本女子大学学生	21	〃
18	11月15日	山内 弘一	上智大学学生	10	〃

19	12月10日 平成14年	楠木 賢道	筑波大学・日本大学学生	16	〃
20	1月21日	枋尾 武	日本女子大学学生	5	〃
21	1月28日	味岡 徹	聖心女子大学学生	9	〃
22	1月29日	山口 昭彦	聖心女子大学学生	7	〃
23	2月6日	三菱広報委員会	報道関係者による視察会参加者	13	〃
24	2月18日	国際交流基金	エカテリーナ・ゲーニヴァ氏他	3	〃
25	2月19日	三菱地所	三菱地所丸ビル開業準備室長他	4	〃
26	2月25日	片山 章雄	東海大学学生	3	〃

5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。作業項目と内容は下記のとおりである。

(1) 漢籍地方志

継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ-11-B-K-87、91、92、95、102を対象。

裏打ち1,947葉、綴じ直し67冊、帙作製7ヶ。

(2) 貴重洋書 (OLD BOOKS)

継続している作業で本年度は、分類記号O-3-A-70~O-3-A-176を対象。

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製132冊。

(3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本（洋、和）133冊、再製本と簡易製本224冊、ラッパー作成39冊。

補修2,060枚、クリーニング86冊、整理保全293点、外注帙264ヶ。

(4) 資料の撮影 38,260コマ

対象資料：漢籍稀観書

(5) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製 66リール

撮影した漢籍稀観書のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製を行った。

6. 業務の機械化

引き続きデータベースの入力作業を継続する一方、インターネット上での簡単なオンライン検索ができるよう作業を進めた。まとまりのある資料群ごとに順次データを公開しており、平成13年度末までに東洋文庫のWeb ページでオンライン検索サービスを開始した目録データベースは下記の10種である。

- (1) 近代日本関係 日本語文献目録 (約6,000件収録)
- (2) 東洋文庫所蔵 漢籍資料 (約2万4,000件収録)
- (3) 東洋文庫・東文研所蔵 アラビア語図書 (約1万2,000件収録)
- (4) 東洋文庫・東文研・東外大所蔵 ペルシャ語図書 (約8,100件収録)
- (5) 東洋文庫所蔵 現代トルコ語図書 (約8,000件収録)
- (6) 近代中国研究委員会収集 日本文図書 (約1万4,000件収録)
- (7) 近代中国研究委員会収集 欧文図書 (約6,900件収録)
- (8) 近代中国研究委員会収集 新収図書目録 (約1万件収録)
- (9) 辻直四郎文庫 (約7,300件収録)
- (10) モリソン二世文庫・ベラルデ文庫 (約4,000件収録)

蓄積データ件数は予定全体の過半に達し、目録データベース事業は折り返し地点にある。平成14年度からは東洋文庫電算化委員会の下部組織としてデータベース小委員会が発足することになっており、図書事業における業務の機械化も新たな段階を迎えている。

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧と新規排架及び主な調整箇所

階	1号棟	新規排架・調整箇所	2号棟	新規排架・調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満州本、 蒙古本、和書(XIII~XVII・ 大型)		/	
5	Old Books、PB、MS、漢 籍稀観書、岩崎文庫、銅版 画、古地図、梅原考古資料、 辻文庫、榎文庫 Olds Books・ 線装本		和書(II~XII)	和書(X~XI)
4	洋書(I~XII・大型)、モリ ソン二世文庫、ペラルテ文 庫、アジア諸語資料、ロシ ア語別置資料		トルコ語資料、榎文庫、岩 見文庫、アジア諸語資料、 チベット語資料	榎文庫、岩見文庫 及びアジア諸語資 料の大型本
3	漢籍(経部・子部・集部・ 叢書・大型)、日本語・ ハングル新着雑誌	漢籍 (経、子、集部)	洋書(XIII~XVII・XIX)、 モリソンパンフレット、ア ラビア語資料、ペルシア語 資料	アラビア語・ペル シャ語資料の大型 本、欧文雑誌 (XVIII-Ba- 452~458)
2	漢籍(史部)	漢籍(地方志)	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物(日・中・朝・ 洋新聞)、中国語・欧文新 着雑誌	中国語・朝鮮語 雑誌	逐次刊行物(欧文)	

本年度の主な資料移動は以下のとおりである。

1. 資料排架の適正化を計るため、2号棟5階の和書の一部(X~XI)を平行移動した。
2. モリソン二世文庫の欧文雑誌を混排するため、既排架の欧文雑誌を平行移動し、併せてこれらの一部(XVIII-Ba-452~458)を2号棟3階に別置調整した。

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部科学省国庫補助金および日本学術振興会科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費あるいは東洋文庫学術情報提供事業費などによるものにとわかれる。

i 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

基盤研究 (B) — (1)

【課題】 「ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究」

【期間】 平成13年度 (平成11年度採用3ヶ年間・最終年度)

【目的】 ；

最近の一連の研究により遊牧部族連合国家モンゴル帝国の国家構造が解明された。本研究はポストモンゴル期の諸帝国について、ペルシア語を中心とする西アジア諸語良質写本を利用して考察し、従来の西洋中心史観、イスラム史観に惑わされることなく、その国家構造を解明することを目的とするものである。

【研究実施概要】 ；

従来、ティムール朝、ムガル朝、ジャライル朝、カラ・コユンル朝、アク・コユンル朝、サファヴィ朝、オスマン朝、その他ポスト・モンゴル期の諸国家に関する研究は圧倒的に西アジア史、中央アジア史、イスラム史の立場からなされてきたため、これら諸国家の中核を構成するテュルク系、モンゴル系支配者層の様相や、その国家構造が極めて曖昧なまま放置され続けることとなった。ペルシア語史料その他西アジア諸語史料の字面の奥深くを剝り出して精査することにより、これら諸国家が基本的には匈奴、突厥、モンゴル帝国の系列上に連なる中央ユーラシア史上の遊牧国家とその継承国家であることが明らかにされる。

【研究代表者】 志茂碩敏研究員 (統括)

【研究分担者】 杉山正明 (モンゴル帝国)、小山皓一郎 (オスマン帝国)、川口琢司 (ティムール帝国、ムガル帝国)、小野 浩 (カラコユンル朝、アクコユンル朝、サファヴィー朝)、堀川 徹 (ウズベク・カザフ・カ

研究成果公開促進費（データベース等）

【名 称】 「東洋学総合情報システム」(A Comprehensive Information System of the Asian Studies) (東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫)

【期 間】 平成13年度（平成6年度以降単年度事業、13年度採用）

【分 野】 東洋学全般

【目 的】 ；

本データベースは、東洋学に関する世界有数の図書を蔵する東洋文庫における各種データを統一的な規格の下にデータベース化する。入力・表示・ソート・検索を出来るかぎり各言語オリジナルスクリプトで行うことにより、専門研究者にとって利用しやすいデータベースを構築する。またインターネット上でも、現在の各種OSの対応状況に応じてオリジナルスクリプトによる検索・表示を試行するとともに、まだオリジナルスクリプトによる表示に対応していない言語に関しては、自動的に翻字するなどして、本データベースのデータを幅広く提供してゆく。平成13年度はアラビア語・ペルシャ語・トルコ語・ウイグル語・チベット語・中国語・韓国語・欧文・和文などの図書書誌データおよびチベット語関連のテキストデータ・内容目次データ・写本書誌データなどを引き続き入力する。

【事業実績概要】 ；

アジアの諸言語で書かれた文献およびその研究文献について、総合的な情報データベースを作成した。特に可能な限りオリジナルの文字をコンピュータ上で処理するとともに、将来性、互換性、公共性を考慮したデータの記入法を検討した入力を行った。東洋文庫所蔵の総合目録データベース（アラビア語、ペルシア語、オスマントルコ語、ウイグル語、現代トルコ語、チベット語、モンゴル語、中央アジア諸語、インド語、中文、欧文、和文、漢籍）を初めとして、解題目録、マイクロフィッシュ目録、テキストデータベース、目次集成などの作成を継続入力した。東洋文庫内でのデータベース利用としてだけでなく、平成12年度からは、東洋文庫の Web ページで、アラビア語、ペルシア語、トルコ語などをオリジナルスクリプトのまま検索・表示できるようにしたほか、本年度では、東洋文庫所蔵各種データベースのオンライン検索（上記の各種言語のほか、平成13年度中に入力件数は辻直四郎文庫、モリソンⅡ世・ベラルデ文庫などを含めて合計レコード数14,888件である。）を充実させた。また、アラビア文字系のデータベースでは、東洋文庫のデータを元に

他機関のデータを統合した総合目録を進めつつあり、平成13年度中に複数機関のデータが検索できるようにした。

【作成代表者】 北村 甫・東洋文庫電算化委員会委員長

【作成分担者】 石井米雄、佐藤次高、斯波義信、田仲一成、福田洋一の各委員

科学研究費新プログラム方式による創成的基礎研究

【課 題】 「現代イスラーム世界の動態的研究—イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積—」(研究代表者・佐藤次高東京大学教授)

【期 間】 平成13年度(平成9年度以降事業・5ヶ年間・最終年度)

【目 的】 ；

本プロジェクト「現代イスラーム世界の動態的研究：イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積」(通称「イスラーム地域研究」)の目的は、以下の3点に要約する事ができる。

本研究の第1の目的は現代イスラーム世界をその動態において解析することである。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、ロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカを含んでいる。もちろんわれわれが対象とするのは、宗教としてのイスラームに限られない、文明としてのイスラームである。このようなイスラーム世界に着目すると、ここには豊かな歴史と伝統をそなえた独自の文明とともに、民族問題・地域紛争・人口爆発・環境破壊・政治の民主化と人権の問題など、現代世界が直面する重要な問題が集約的に見いだされる。本研究はこれらの地域が抱えるイスラームに固有な宗教・政治・経済・社会・文化問題を抽出し、これを地域間比較の手法を用いて総合的に研究する。

第2の目的は、このような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。そのために、宗教学・政治学・社会学・人類学などの学問領域を越えた学融合を試みるとともに、上述地域を組み合わせ(例えば、中東とヨーロッパ、中国と南・東南アジアなど)、「共存と対立」、「法と社会」、「人的ネットワークの機能」など特定のテーマについて具体的な比較研究を実施する。しかもこの比較研究では、従来の地域研究より歴史的なアプローチを重視することになろう。歴史的アプローチはどの学問分野にも適合可能であるし、各ディシプリンによる研究成果を総合するうえでも有効だと思われるからである。

第3の目的は、国際的な共同研究の基礎整備、地理情報システム活用、多様なデータベース構築のために、最新のコンピュータ技術の積極的な応用・開発をはか

ることである。多様な言語を用いるアジア研究においては、これまでコンピュータの利用はきわめて不十分であったが、この機会に各研究拠点を結ぶイスラーム地域研究情報システムを構築し、また国内におけるアラビア文字文献の総合データベースを作成する。

このような研究活動を通じて「現代思想と政治運動」、「イスラームと民主主義」、「聖者信仰と神秘主義」、「性と文化」、「所有・契約・市場の比較史」、「イスラーム史学」、「中東・アフリカの奴隷エリート」、「イスラームにおける境域の観念」、「近現代のロシア・中央アジアのイスラームと政治」、「20世紀イスラーム世界の知識人」などをテーマとして、和文叢書（全8巻）および英文叢書（全12巻）を刊行し、今後の研究展開のために基盤づくりを行った。

平成13年度は、本プロジェクトの最終年度であり、10月の東京国際会議 *The Dynamism of Muslim Societies : New Horizons in Islamic Area Studies* は、イスラーム地域研究の最終成果を内外に提示すると同時に、将来の研究課題を設定することにも貢献した。われわれはこれを本年度の全体集会として位置づけ、これに向けて研究セミナーの開催など十分な準備作業を積み重ねた。

【第6班課題】 「イスラーム関係史料の収集と研究」

【目的】；

東洋文庫に拠点を置く本班は次の3点を目的にイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究を実施した。

まず、本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担い、前近代イスラーム地域研究に必要な各種資料をひろく収集した。さらに収集された図書出版物の有効利用のため、図書情報のデータベース化、オンライン情報提供を行った。

次に、イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための基礎的研究を実施した。ここでは主に写本や文書などの歴史一次史料を対象とする。本研究では、歴史文書や写本がもつ固有の構造を史料学的に検討することを通じ歴史的なイスラーム地域の基層構造に光をあてることをめざした。

【研究実績概要】；

(1) 前近代イスラーム関係資料の収集と図書情報のデータベース化

本年度も、前年度にひきつづき前近代イスラーム関係資料の系統的な収集を継続した。収集資料は図書を中心とするが、マイクロフィルム、電子出版物などの収集も積極的に行った。収集した資料の図書データは、各言語の固有文字をもちいてデータベース化を進めた。東洋文庫では永年にわたり多言語図書情報データベースの構築にとりくんできたが、その技術をここに利用している。構築されたデータベースは、CD-Rom 版東洋文庫所蔵カタログに収録され、プロジェクト参加者に

頒布した。また、東洋文庫の所蔵データベースと合体した上で、インターネット上でのオンライン検索による当該データベース利用を促進している。

(2) 歴史史料に関する史料学的研究

写本、文書史料を用いた研究は端緒についたばかりであるという現状に鑑み、本班ではペルシア語文書、オスマン語文書（政府文書、法廷文書、テメトゥアート台帳など）、宮廷儀礼に関するアラビア語写本などに関する研究会・ワークショップ・セミナーなどを実施し、これらの史料群にたいする理解を深めることをめざすことにつとめた。

(3) イスラーム地域研究へのコンピュータ利用に関する研究

本班では、(1)(2)の各活動を支援することを主な目的に、アラビア語と日本語を中心とした多言語環境、アラビア語図書情報オンライン化、イスラーム地域研究に有効なインターネット利用などのテーマに関する情報収集と研究を積極的に推進した。イスラーム地域研究のニーズと技術的な現状との接点を明らかにすることがここの目的である。

【平成13年度の具体的研究実施内容】；

- (1) 中東諸国に加え、南アジアおよび中央アジアで、ムスリム関係図書の収集につとめた。データベースの作成、公開を引き続き行った。
- (2) アラビア文字系文献データベース連絡会および、共通データベース作成作業班の活動を引き続き実施した。またプロジェクト終了後も作業を継続できる体制づくりを整備した。
- (3) 成果のとりまとめにむけて、各研究会ごとの総括的研究会を実施した。
- (4) 最終年度の国際シンポジウムにおける6班担当セッション、"Contract, Validity, documentation" を組織し、そのための招聘を行った。
- (5) 成果の公刊を準備した。具体的には、欧文叢書として刊行予定の *The Ottoman State and Local Societies in Change*、ならびに *Studies on Persian Archivas Sources*、訳註書『カリブ宮廷の儀礼』の編集作業を行った。

【第6班研究代表者】 斯波義信・(財)東洋文庫理事長

【研究分担者】 統括：斯波義信、永田雄三

トルコ関係史料：永田雄三、清水宏祐

林 佳世子（兼・オスマン帝国資産台帳研究主宰）

イラン 〃 志茂碩敏、清水宏祐

アラブ 〃 三浦 徹（兼・書誌情報データベース化）

中国・中央アジア関係史料：梅村 坦

南・東南アジア 〃 小名康之

基盤研究 (C) — (2)

【課題】 「『翻訳名義大集』における蔵蒙漢対照仏教語彙の基礎的研究」

【期間】 平成13年度 (平成12年度採用2ヶ年間・最終年度)

【目的】 ;

『翻訳名義大集』は、古代チベット王国において梵語仏典をチベット語訳するに際しての訳語の基準を定めたものとして編纂された梵・蔵対照仏教語彙集である。約9000の項目が内容別に分けられて収録されており、チベット語仏教用語に対応するサンスクリット語を知る上で、もっとも信頼のおける資料である。本研究申請者2名は、チベット大蔵経四版 (梵・蔵対照のナルタン版、北京版、デルゲ版、チョーネ版) および、モンゴル大蔵経 (蔵・蒙対照の北京版)、ペテルスブルグ写本 (梵・蔵・蒙・漢対照) を対校した『新訂翻訳名義大集』 (東洋文庫、1989) を刊行した。しかし、同書には、漢訳語の欠如、新たな写本チベット語大蔵経の刊行、索引の欠如、モンゴル文字転写の誤読、他の仏典資料との比較をしていないなど、文献学的には不十分な点が多々あり、そのままの形で再刊することは留保してきた。本研究は、以上の問題点を解消し、梵・蔵・蒙・漢にわたる仏教語彙研究を集大成した決定版『翻訳名義大集』を作成するための基礎研究を行う。

【研究実績概要】 ;

- (1) チベット語の新発見の写本蔵経 (『金写丹珠爾』) を対校することにより、より正確なチベット語校訂を継続した。
- (2) 中世モンゴル語の研究成果に基づき、モンゴル文字転写を見直し、その際、モンゴル語とチベット語を、語の構成要素にまで分解して対応させた索引を作成し、不明瞭なモンゴル語の表記を統一的に読解できるように整理した。
- (3) 仏教サンスクリット語の語彙については、前回はチベット大蔵経の読みをほぼそのまま採録したにとどまり批判的校訂が十分ではなかったので、最新の仏教研究の成果を参照し、サンスクリット語の批判的校訂を実施し、最終的な校訂テキストを作成した。
- (4) 漢訳語の調査を継続した。上記写本に含まれる中国語訳は、必ずしも伝統的な漢訳語ではなく、当時の中国語で新たに翻訳したものが付されていることが多いので、新たに調査した。
- (5) 最近10年間に各種の仏教文献の索引が多数刊行されたので、それらを参照し、批判的校訂の資料とすることにつとめた。
- (6) 前著をもとにデータベースを構築し、校訂作業をコンピュータ上で行っている。
- (7) 成果は、データベースから自動的に電子テキストとして作成し、検索の便を

図ることにつとめた。

【研究代表者】 福田洋一研究員；統括、梵・藏・漢仏教語彙の調査

【研究分担者】 石濱裕美子・早稲田大学専任講師；藏・蒙・漢仏教語彙の調査

ii 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会的仕組みと展開に関する
研究—東アジア・中央アジア・西アジアを中心に—」

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会的しくみとその展開を地域間比較の視点から体系的な考察を実施した。また、本プロジェクトで収集した図書・資料は、下記の通りである。

区 分	和漢書	洋 書
数 量	483冊	1,540冊

本年度は、文部科学省国庫補助金事業として上記「新研究プロジェクト」の方針のもとに、朝鮮研究委員会、東亜考古学研究委員会を中心に調査研究を進めた。なお、研究部12研究委員会の事業は下記の通りである。

(各委員会の中の研究課題の後に付された●印は、文部科学省国庫補助金事業費および東洋文庫学術情報提供費を使用して主に重点的に事業担当したことを表す。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、つぎの「iii. 特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表す。)

東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。
- ② 「東アジア都城遺跡研究」の作成●。（以上、前年度の継続）

古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。
11月30日(金) 藤田 勝久・愛媛大学教授
「司馬遷の旅行」
12月7日(金) 韓 昇・復旦大学歴史系教授
「中国における魏晋南北朝・隋唐史と
周辺諸国（日本・朝鮮等）との関係の研究」
- ② 中国古代史研究会（中国古典籍の読書会）の開催。（以上、前年度の継続）『水経注疏』

卷十七渭水の講読会

- ・ 5月19日(土)、6月16日(土)、7月7日(土)……高津純也
- ・ 9月22日(土)、10月6日(土)、12月15日(土)、1月19日(土)、2月2日(土)、2月16日(土)……村松弘一
- ・ 6月2日(土) 塩沢裕仁「甘肅の遺跡について」
- ・ 11月17日(土) 田村晃一「渤海の瓦について」
- ③ 「東アジア都城遺跡研究」の作成協力。
- ④ 『晋書食貨志譯註』の作成。(以上、前年度の継続)
- ⑤ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史(敦煌文献)研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献およびそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集およびそれらに引用された出土文書番号の採録カード(研究文献目録補遺)の補充。
- ④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。
 - 9月1日(土) 池田 温「国際会議“唐宋的仏教社会—寺院財富与世俗供養”紹介」
 - 11月17日(土) 王 素「『吐魯番出土文書』早期整理工作述評—『吐魯番出土文書』整理組現存檔案為中心」(通訳・森部豊)
 - 12月15日(土) 張 先堂「法照与五台山・並州的關係—以敦煌文献為中心」(通訳・趙声良)
 - 1月19日(土) 川崎ミチコ「《地藏王菩薩執掌幽冥宝卷》について—北京購入の抄本を中心として」
 - 2月16日(土) 京戸慈光「〈21世紀敦煌学国際学術研討会〉報告 2001年11月2・3日、於台湾・中正大学・逢甲大学」
 - 3月2日(土) 森安孝夫「ウイグルから見た安史の乱」
 - 3月16日(土) 大津 透、野尻 忠、稲田奈津子
「大谷文書均田制関係文書群の復原研究」
- ⑤ 東洋文庫所蔵石刻拓本関係資料研究会の開催。(以上、前年度の継続)

宋代史研究委員会

- ① 『宋史食貨志訳註(四)(五)(六)および総索引』の作成●。
- ② 『朝野類要訳註』の作成。

- ③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）語彙索引作成。（以上、前年度の継続）
- ④ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。（前年度の継続）

清代史（満蒙）研究委員会

- ① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。（隔週、研究会の開催）
- ② 各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。
- ③ 『内国史院檔（満文）』の作成●。（以上、前年度の継続）

近代中国研究委員会※

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係資料の収集、整理。
- ③ 『近代中国研究彙報』第24号の編集、出版。
- ④ 日中現代史研究会の開催。
 - 5月12日（土） 小林元裕「瀋陽から見た日中関係」
 - 7月7日（土） 波多野勝「中国第三革命と日本外交」
 - 9月22日（土） 高綱博文「くわがふるさと・上海」の誕生—上海引揚者たちのノスタルジーに関する試論」
 - 11月10日（土） 久保田善文「“アジア主義者”と雑誌『成功』（1902～1916）—“いざない”のなかの中国イメージ」
 - 1月19日（土） 白井勝美「袁世凱帝制問題」
 - 3月16日（土） 李曉東「“帝制”と民初の知識人たち」
- ⑤ 中国調査資料研究会の開催
 - 日中戦争時期の興亜院による中国調査を研究課題とするプロジェクトが3年目になり、研究成果をまとめる活動を行った。
 - 6月2日（土） 研究成果を出版物にすべく、その内容について検討した。その結果、メンバーが分担執筆する論文と興亜院刊行物の所蔵目録とで構成することと決定した。また、所蔵状況の補充調査についても意見を交換した。
 - 12月22日（土） ほぼ完成した原稿を持ち寄り、その概要を報告するとともに記述の重複などの問題について検討した。

日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題（Ⅳ）（Ⅴ）』の作成●。（前年度の継続）
- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- ① 「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題」の作成●。（前年度の継続）
- ② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム社会の構造の研究。
- ② イスラーム関係史料の収集と研究（イスラーム地域研究）●。
- ③ ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究●。
- ④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。（以上、前年度の継続）
- ⑥ 隊商貿易史の研究。
- ⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会※

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）

南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。
- ② インド亜大陸のイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究●。
- ③ ムガル期の一次資料（ペルシア語、ウルドゥー語など）を読む研究会の開催。（以上、前年度の継続）
- ④ ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。
- ⑤ 辻文庫目録(3)、萩原文庫目録の Index の作成。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究 (チベット研究委員会)

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】 ；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
- ② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベット人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。
- ③ 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成を継続した。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	洋 書
数 量	2 冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第7巻 A 5判 1冊 (刊行済)
- ② 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】 ；

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書
数 量	560冊	19冊

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第24号 A 5 判 1 冊 (刊行済)

iv その他の平成13年度研究助成金による事業

1) 三菱財団法人人文科学研究助成金特別事業

①【課 題】「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅲ」

【期 間】 平成12年10月～平成14年9月(2ヶ年間)

【目 的】；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。この文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、各種の行政関係・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。(財)東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に貢献してきた。今回は、交渉をかさね、世界にさきがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにはチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジア諸民族の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

【事業実績概要】；

(財)東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A.スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して収集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4カ国のうち、今日までにロ

ンドンの大英図書館（旧インド省図書館の敦煌等文書を含む）約16,000点（92,000齣）、パリ国立図書館約7,000点（54,000齣）、北京図書館約9,000点（13,000齣、一説に約16,000点現存とも言われる）のマイクロフィルムを収集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、多くの研究成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア将来文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所 St. ペテルブルク支所所蔵の非公開文書約19,000点・約250,000齣におよぶ膨大な量のマイクロフィルムを収集することを最大の成果と考えている。

1996年4月の東洋文庫とロシア科学アカデミー東洋学研究所 St. ペテルブルク支所との契約調印に基づき、5・6世紀～19世紀頃の内陸アジア関係文書のオリジナル・ネガフィルム撮影および調査研究プロジェクトは、当初の収集計画約25万齣の中、三菱財団学術助成金等の諸経費により、2002年2月現在、355Reels232,468齣を東洋文庫に将来することができた。

そのネガフィルム化された内陸アジア諸言語の内訳は、11～13世紀のタンゲート（西夏）語約70,000齣、6～14世紀に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル・コータン・ソグド等の諸語約14,000齣、サンスクリット語・チベット語約18,000齣、モンゴル語約12,000齣、満州語約30,000齣、5～13世紀頃の敦煌・トルファン等発見の漢文文書約32,000齣、ペルシア語約18,000齣、13～16世紀のチャガタイトルコ語約16,000齣、アラビア語約20,000齣である。本プロジェクトのマイクロ化事業は、最終段階を迎えているが、いまだ、既収マイクロの中、撮影漏れ等文書約20,000齣の追加収集することによって、総合的研究の基盤を達成することになる。なお、今後の緊急の課題として収集済みのマイクロフィルムの分析・整理を実施しているが、一般公開にむけて、各言語の書誌的データを取り入れた仮目録を作成することを第一の課題とする。次に第二の課題は、東洋文庫を拠点に東洋文庫研究員をはじめとする国内の専門研究者とともに、随時、海外の専門研究者の参加を得て、内陸アジア諸民族の歴史・文化・言語・宗教・社会経済等の分野における総合的研究を早急に推進することである。

【代表者】 佐藤次高研究部長

【分担者】 西田龍雄、池田 温、梅村 坦、石橋崇雄、福田洋一の
各研究員および熊本裕東京大学教授

②【課題】 「イスラーム法廷文書の社会的研究」

【期間】 平成11年10月～平成13年9月（2ヶ年間）

【目的】；

イスラーム法廷文書には、婚姻や相続、売買・賃貸借、債権・債務といった日常の

各種の契約が記録され、オスマン朝時代のトルコ、シリア、エジプト地域の諸都市で記帳された数万冊の法廷台帳（15～20世紀）は、住民の社会生活の細部までを照らす史料の宝庫といえる。

従来の法廷文書を用いた研究では、このような「法廷」の記録としての特性が見過ごされ、社会経済のデータだけが独り歩きしていた。本研究では、史料学的分析、法学的検討、データベースを用いた統計的分析を総合し、地域社会のメカニズムを解析することをめざす。

【事業実績概要】；

- (1) 「法廷関係資料の調査」；今年度は、シリアのハマー県の人口問題に関する調査のため、総理府オスマン古文書館（イスタンブル、トルコ）、ダマスカス歴史文書館（シリア）などにおいて、16世紀の徴税台帳、スルタン勅令台帳、イスラーム法廷文書台帳の調査を行った。
- (2) 「史料のデータベース化」；今年度は、アラビア語、オスマン・トルコ語の法廷文書台帳のテキスト化を行った。その一部は、ホームページに掲載するため準備中である。
- (3) 「成果とその公表」；

- ①シンポジウム「イスラーム法廷の世界」において、「イスラーム法廷と地域社会：裁判官、公証人、住民」および「オスマン朝における財務行政からみた法廷の役割」の報告を行った。
- ②国際ワークショップ「オスマン・イスラーム法廷文書ワークショップ（ハーヴァード大学中東研究所、中東社会文化史協会共催、米国ハーヴァード大学）に参加して、イスラーム法廷文書の普遍性と多様性を明らかにするために、オスマン朝時代の法廷文書につき集中的に討議を行った。本研究班は、ダマスカスのサーリヒーヤ法廷の台帳をもとに、18～19世紀の変化について報告した。

以上、本研究は、法廷文書という定式化された大量の文書群から、イスラーム社会のあり方を読み解くことをめざしてスタートした。上記の視点にたつことで、資料群の史料学的検討や統計的分析から、法廷の社会的機能、地域社会の秩序を明らかにする道を拓いたと評価するものである。

（以下、略）

【代表者】 三浦 徹研究員

【分担者】 永田雄三、林 佳世子の研究員および江川ひかり立命館大学助教授

2) 生科学工業株式会社寄付金特定事業

- 【事業名】 東南アジアを中心としたアジア関係資料データベース化プロジェクト
[プロジェクト代表：斯波義信]
- 【期 間】 平成13年度～同17年度（5ヶ年計画）。
当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。
- 【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心としたアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。
- 【事 業】 アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。

V 研究委員会

研究部の研究事業を企画・実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成13年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。

なお、専任・兼任の研究員以外にも、奨励研究員、当該年度受入の外国人研究員、日本学術振興会特別研究員、各大学の国内研修教員受入なども各々の研究の専門分野に応じて、便宜上、12研究委員会のいずれかに所属させた。

第1部 中国研究

東亜考古学：飯島武次、田村晃一

古代史：飯尾秀幸、宇都木 章、太田幸男、窪添慶文、堀 敏一、松丸道雄

唐代史（敦煌文献）：池田 温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和

松本 明、高瀬奈津子、王 素

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、竺沙雅章、千葉昶、中嶋 敏

長谷川誠夫、柳田節子、吉田 寅、渡辺紘良

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦、E. ROSNER

第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、大谷俊太、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦

辻本裕成、枳尾 武、鳥海 靖、中野真麻理、深沢眞二、宮崎修多
柳田征司、和田恭幸

第3部 東北アジア研究

清代史（満洲・蒙古）：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫、岸本美緒
C. A. ダニエルス、中見立夫、細谷良夫、松村 潤、王 其戈

朝鮮：井上和枝、梅田博之、大江孝男、槽谷憲一、武田幸男、古屋昭弘、山内弘一
吉田光男、森平雅彦

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦、片山章雄、後藤 明、小松久男、佐藤次高
志茂碩敏、清水宏祐、薮 勇造、新免 康、杉山正明、永田雄三、花田宇秋
林 佳世子、林 俊雄、三浦 徹、森安孝夫、八尾師 誠、M. SABRY
高松洋一、B. MARINO、大河原知樹、B. ABULIMITI、佐藤 実

チベット：川崎信定、北村 甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星 實千代
松涛誠達、御牧克己、山口瑞鳳

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、辛島 昇、熊本
裕、桜井由躬雄、永積洋子、萩田 博、原 實、山崎元一

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第83巻第1号～第4号 平成13年6月、9月、12月、平成14年3月刊
A 5判 4冊 全556頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko” No. 59 2001年刊
B 5判 144頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

宋代史研究委員会 (特別研究史料出版A)
『宋史食貨志譯註(四)』 平成14年3月刊 A5判 x+531頁

Toyo Bunko Research Library No. 2 (特別研究資料出版B)
“The Diversity of the Socio-economy in Song China 960—1279”
平成14年3月刊 A5判 386頁

近代中国研究委員会
『近代中国研究彙報』第24号 平成14年3月刊 A5判104頁

チベット研究委員会
『チベット仏教基本文献 第7巻』 平成14年3月刊 B5判 148頁
『チベット特別調査研究年次報告』 平成14年3月刊 A5判 10頁

『ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究』
(平成11～13年度科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書)
平成14年3月刊 B5判 120頁

『『翻訳名義大集』における梵・藏・蒙・漢語仏教語彙の基礎的研究』
(平成12・13年度科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告書)
平成14年3月刊 A4判 126頁

東洋文庫諸目録等
『東洋文庫書報』第33号 平成14年3月刊 A5判 125頁
『東洋文庫新着図書目録』第49号 平成14年3月刊 B5判 97頁
『東洋文庫年報』(平成12年度版) 平成13年10月刊 A5判 80頁

3. 講演会

春期 東洋学講座 (共通テーマ; 科 挙)

第461回 平成13年5月15日(火)

「宋代科挙官僚の選任制度」

東洋文庫研究員
獨協医科大学教授

渡辺 紘良 氏

第462回 平成13年5月22日(火)

「宋代科学社会の形成」

早稲田大学教授

近藤 一成 氏

第463回 平成13年5月29日(火)

「清代、被差別民と学校・科举」

青山学院大学講師

安野 省三 氏

秋期 東洋学講座 (共通テーマ; 「旅と交流」のイスラーム世界)

第464回 平成13年10月16日(火)

「イスラーム世界の旅人たち —イブン・バットウータの『大旅行記』を読む—」

東京外国語大学アジア・

アフリカ言語文化研究所教授 家島 彦一 氏

第465回 平成13年10月23日(火)

「イスラーム世界における中国美術の伝播

—トプカプ宮殿所蔵『サライ・アルバム』に見る絵画の交流—」

東亜大学教授

ヤマンラール水野美奈子 氏

第466回 平成13年10月30日(火)

「イブラヒムのユーラシア旅行 —パン・イスラム主義と日本—」

東洋文庫研究員

東京大学教授

小松 久男 氏

特別講演会 (不定期)

第1回 平成13年10月24日(水)

“Spoken word and Written text — Modes of transmission of knowledge in pre-modern Islamic Culture.”

(話された言葉と書かれたテキスト —前近代イスラーム文化における知識の伝達方法—)

Prof., Martin Luther Univ. S. C. H. LEDER 氏

第2回 平成13年10月24日(水)

“French Studies on Mediterranean Cities.” (フランスにおける地中海都市の研究)

Chercheur, Institut français d'études arabes de Damas

Brigitte MARINO 氏

第3回 平成13年11月13日(火)

「長沙走馬楼三国呉簡の研究とその基本問題

—長沙走馬楼三国呉簡研究の回顧と展望」

中国文物研究所文物古文献考古研究中心研究員 王 素 氏

第4回 平成13年11月21日(水)

「哈佛燕京図書館蔵明代徽州方氏親友尺牘研究」

中国社会科学院歴史研究所研究員 陳 智 超 氏

第5回 平成14年3月1日(金)

「甲骨学研究1978年以降進入了“全面深入研究”的新段階」

中国社会科学院歴史研究所研究員 王 宇 信 氏

第6回 平成14年3月22日(金)

「西洋から見た東アジア医学史」

ドイツ・ゲッティンゲン大学中国学教授 E. ROSNER 氏

4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)

・平成14年1月25日(金)

「勅令・台帳・抜粋 —18世紀オスマン朝文書行政における情報処理について—」

東洋文庫奨励研究員 高松 洋一 氏

5. 学 術 情 報 提 供

i 研究者養成

西アジア研究 高松 洋一 (東京大学大学院 P.D.)

「オスマン朝における文書諸様式の機能と官僚機構」

中国研究 高瀬 奈津子 (明治大学大学院 P.D.)

「中国北朝隋唐時代の仏教と国家・社会の関係」

ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

1) 国内研究者の受入

2) 平成13年度日本学術振興会特別研究員 P.D. の受入

大河原 知樹 (慶応義塾大学大学院 P.D.)

「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究:

19~20世紀初頭のダマスカス」(平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間)

森平 雅彦 (東京大学大学院 P.D.)

「制度・慣例を通じてみた高麗と元朝の国家間関係」

(平成13年度採用、同14・15年度受入辞退)

3) 外国人研究者の受入

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした中国少数民族に関する

関係資料の民族学的研究」(平成11年9月1日以降2ヶ年間・私費・受入終了)

SABRY Muhammad エジプト・ヘルワーン大学助教授

「オスマン期エジプトの知と思想 1517~1798」

(平成11年9月以降2ヶ年間・日本学術振興会招聘・受入終了)

MARINO Brigitte ダマスカス・フランス・アラブ学研究所研究員

「オスマン時代シリア(16~18世紀)における都市領域」

(平成12年11月以降1ヶ年間・日本学術振興会招聘・受入終了)

ABULIMITI Baisier 中国新疆師範大学副教授、人文学院副院長

「古代ウイグル言語と文化についての研究」

(平成13年9月22日以降1ヶ年間・国際交流基金フェローシップ)

王 素 中国文物研究所文物古文献考古研究中心研究員

「中国魏晉南北朝時代の近年出土の文字資料をめぐる日中共同研究」

(平成13年10月15日以降47日間・日本学術振興会招聘・受入終了)

ROSNER Erhard ドイツ・ゲッティンゲン大学東アジア研究所教授

「中国医学史の研究」(平成14年2月16日以降44日間・日本学術振興会招聘・受入終了)

4) 研究者の派遣

5) 外国人研究者への便宜供与

Buryat Autonomous Republic

D. Y. Boronoyeva Dr., The Buryat State University.

China (Peoples Republic)

張 双 福	内蒙古社会科学院雑誌社編審教授
張 保 文	中国第一歴史檔案館副研究館員、助教授
王 素	中国文物研究所文物古文献考古研究中心研究員
王 嗣 洲	旅順博物館研究員
張 先 堂	敦煌研究院學術委員会副秘書長、副研究員
趙 超	中国社会科学院考古研究所研究員
李 連 荣	中国社会科学院少数民族文学所藏学文学室、 格薩尔研究中心研究員
郝 時 遠	中国社会科学院民族研究所所長
色 音	中国社会科学院民族研究所人類学研究室研究員
陳 広 宏	復旦大学教授
陳 蘇 鎮	北京大学中国古代史研究中心副教授
何 孝 荣	南開大学歴史研究所副教授
黄 仕 忠	中山大学教授
阿布力米提・拜斯尔	新疆師範大学人文学院副教授
王 其 戈	内蒙古文化教育大学教授
陳 智 超	中国社会科学院歴史研究所研究員
楊 勝 群	中共中央文献研究室副主任研究員
李 捷	中共中央文献研究室研究員
沈 学 明	中共中央文献研究室研究員
廣 平	中共中央文献研究室副研究員
盧 潔	中共中央文献研究室副研究員
王 宇 信	中国社会科学院歴史研究所研究員
李 孝 聰	北京大学中国古代史研究中心副主任
アルズグリ・グリ	新疆大学講師
黄 霖	復旦大学中文系教授

夏	應	元	中国社会科学院歷史研究所副研究員
張	会	才	中央党研究室教授
鄭		瑾	浙江大学大学院生
李	保	之	中国第一歷史檔案館員
馮		蒸	首都師範大学教授
姜		涛	中国社会科学院歷史研究所研究員
曹	度	漠	中国人民大学教授
齐木德	道尔志		內蒙古大学教授
陳	濂	平	南京大学中華民國史研究中心教授
梁	希	哲	吉林大学文学院歷史系教授
宋		鷗	吉林大学文学院歷史系教授
李	孝	聰	北京大学中国古代史研究中心教授

China (Taiwan)

張	哲	嘉	中央研究院近代史研究所研究員
羅	久	臺	中央研究院近代史研究所副研究員
張		力	中央研究院近代史研究所研究員
黃	自	進	中央研究院近代史研究所副研究員
衣	若	蘭	輔仁大学講師
衣	若	芬	中央研究院近代史研究所副研究員
莊	文	平	政治大学大学院博士課程
林	士	鉉	政治大学大学院博士課程

Egypt

Muhammad Sabry	Lecturer, Modern History, Dept. of History, Faculty of Art, Helwan University.
----------------	---

France

Brigitte Marino	Researcher, Institut Français d'Etudes Arabes de Damas.
Christian Lamouroux	Dr., L'Ecole Française d'Extreme-Orient

Germany

- Erhard Rosner Prof., Ostasiatisches Seminar der Universität
Göttingen.
- Stefan Christoph H. Leder Prof., Martin Luther University.
- Klaus Röhrboir Prof., Ostasiatisches Seminar der Universität
Göttingen.

Israel

- David Menashri Prof., TelAviv University.

Kazakhstan

- Karl Baipakov Director, Institute of Archaeology.

Korea

- 金 吉 植 国立中央博物館考古部主事
- 呉 永 贊 国立中央博物館考古遺跡管理部主事
- 金 周 源 ソウル大学校言語学科教授
- 曹 炯 鎮 江南大学校文献情報学科教授
- 鄭 光 高麗大学校人文大学教授
- 鄭 丞 惠 水原女子大学校助教授
- 李 熙 濬 慶北大学校考古人類学科教授
- 金 在 弘 国立全州博物館学芸員
- 鄭 明 基 圓光大学院教授
- 金 昌 鎬 慶州大学校副教授
- 白 忠 鉉 ソウル大学校教授
- 李 泰 鏞 ソウル大学校教授

Mongolia

- Ts. Shagdaisurug Dr., National University of Mongolia.

Netherlands

- A. J. de Voogt Dr., Research School of Asian, Africa and
Amerindian Studies, Leiden University.

Russia

Genieva Ekaterina

Director, M.I. Rudomino State Library
for Foreign Literature.

Singapore

Michael W. Charney

Research Fellow, Centre for Advanced Studies,
National University.

Tunisia

Touhami Abdouli

Dr., Université des Lettres,
des Arts et des Sciences Humaines.

Turkey

Ali Akyildiz

Prof., Marmara Üniversitesi Edebiyat Fakültesi.

Feridun M. Emecen

Prof., İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi.

Ilhan Sahin

Prof., İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi.

Magfired M. Kemal

PhD. Candidate, Ankara Üniversitesi.

Ali Merthan Dündal

PhD. Candidate, Ankara Üniversitesi.

U. K.

崔 裕 真

Graduate Student, Faculty of History
University of Cambridge.

Joseph McDermott

Fellow, St John's College, University of Cambridge.

U. S. A.

Christopher Beckwith

Prof., Indiana University.

John W. Chaffee

Prof., State University of New York at Binghamton.

余 霽 芹

Prof., Washington University.

Richard von Glahn

Prof., University of California Los Angeles.

費 絲 言

PhD. Candidate, Stanford University.

Kristie Gilbert

Graduate Student, Yale University.

William F. Pore

Dr., George Washington University.

Seungjoo Yoou

Assistant Prof., Carleton College.

Margaret Stocker

Curator, India House.

Gary Bergstrom

Graduate Student, Boston University.

iii 研究会等への会場提供サービス

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	10	22	17	13	10	18	23	28	15	12	10	15	193回
参加人数	87	381	130	126	87	144	471	294	135	109	94	161	2,219人

iv 研究資料の復刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第82巻4号、第83巻1、2、3号	各400部
Tun-huang and Turfan Documents(Supplement)	80部
The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko	80部
西藏仏教基本文献(6)	50部
近代中国研究彙報 第23号	50部
東洋文庫書報 第32号等2種	各50部

v 参考情報提供サービス

【東洋文庫年報】 平成12年度版 A5判 80頁 (刊行済)

(上記の出版を含めて、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※なお、〈5. 学術情報提供〉における「図書資料の閲覧(協力)サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、「I. 図書事業」の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」等については、平成13年度は特段の報告事項はない。

6. 職員の研究業績

期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編著 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

飯島 武次

③「洛陽西周時代銅遺跡と殷人墓」（『日本考古学協会第67回総会研究発表要旨』日本考古学協会、151～154頁、日本考古学協会、2001年2月）、「洛陽付近出土の西周時代灰釉陶器の研究」（『駒澤大学文学部紀要』六十、13～33頁、駒澤大学文学部、2002年3月）、⑧「与夏文化探索者的対話」（『手鑑釈天書』455～465頁、中国鄭州、大象出版社、2001年4月）、「水曜日の古代学講座」（『角田文衛博士の学風と軌跡』60頁、角田文衛先生米寿記念会、2001年6月）、「“中国考古学”の刊行にあたって」（『中国考古学』1、1～2頁、日本中国考古学会、2001年12月）、「中国文化遺跡の修復事業と発掘」（『東方学と国際協力』25～33頁、京都大学人文科学研究所、2002年3月）。

池田 温

①『東アジアの文化交流史』（吉川弘文館、2002年3月、本文416頁）、②『*Tunhuang and Turfan Documents concerning Social and Economic History. Supplements (A) (B)*』（山本達郎・土肥義和・氣賀澤保規・岡野誠・石田勇作・妹尾達彦共編、東洋文庫、2001年、(A) ix+97+71+x 頁、(B) xii+89頁）、④「蔵経洞発見100年記念の盛挙」（『シルクロード研究』3、13～40頁、創価大学シルクロード研究センター、2002年3月）、「近年日本的敦煌吐魯番研究」（張銘心訳、『敦煌学輯刊』2001年1期（総第39期）、116～136頁、蘭州大学、2001年6月）、⑤「劉俊文『唐代法制研究』」（『東洋史研究』60-4、137～145頁、2002年3月、（京都）東洋史研究会）、⑦「唐令復原研究の進展と展望」（法制史学会中部部会例会、2002年1月26日、愛知学院大学）、「*Merit, Opulence, and the Buddhist Network of Wealth. 唐宋時代の佛教芸術；寺院財富と供養制度*」国際学術討論会（Northwestern 大学美術史系・北京大学歴史系共催、2001年6月27～30日、北京大学に Discussant として参加）、⑧「（山本達郎博士）追悼文」（『東方学』102、160～162頁、2001年7月、東方学会）、「周一良教授追悼文」（『東方学』103、144～154頁、2002年1月、東方学会）、「国際学術研究分担出張調査略報 付論・楊守敬将来日本古文献について」（『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』5～24頁、2002年3月、（京都）国際日本文化研究センター）。

石橋 崇雄

③『『音漢清文鑑』(巻2) 満洲語索引—君類・擢用類・詞訟類—』(『国士館大学文学部人文学会紀要』34、75～83頁、2001年12月)、「大老妖と怪物官僚のこと—清代の野史より」(月刊『しにか』12-8、58～61頁、大修館書店、2001年8月)、「雍正帝の改革—「華夷一家」多民族王朝の「中華」帝国支配」(月刊『しにか』13-1、52～55頁、大修館書店、2002年1月)。

上野 英二

③「渡河の情景—伊勢物語ノート—」(『成城国文学論集』28、1～57頁、成城大学大学院文学研究科、2002年3月)。

内山 雅生

③『『華北農村慣行調査』と中国社会認識』(小島晋治・大里浩秋・並木頼寿編『20世紀の中国研究 その遺産をどう生かすか』79～95頁、研文出版、2001年6月)、「中国・黄河下流域における共同慣行と『水』」(藤田和子編『モンスーン・アジアの水と社会環境』91～122頁、世界思想社、2002年1月)。

梅村 坦

③「ニヤにおけるオアシス農民の生活——ニヤ郷チムリクオスタン村における聞き取り調査をもとに——」(高村弘毅『タクリマカン沙漠南縁オアシスにおける水環境の変化と沙漠化』科学研究補助金・基盤研究(A)(2)研究成果報告書、109～117頁、2001年3月 [共著者：鈴木健太郎])、「オアシスのバザール——中国・西部大開発前夜のニヤとホタン——」(『総合政策研究』7、1～10頁、中央大学、2001年6月 [共著者：鈴木健太郎])、⑦「ニヤにおけるオアシス農民の生活」(日本地理学会2002年度春季学術大会シンポジウムI「タクリマカン沙漠およびその近傍における環境変化と人間活動」S110、2002年3月30日、於日本大学文理学部、大会予稿集 [口頭報告者：鈴木健太郎])、⑧「中国西北地区・新疆の旅から——イスラームを中心に 2 実録、新疆の地回り」(『歴史と地理』544、山川出版社、27～37頁、2001年5月)、『角川世界史辞典』(角川書店、2001年10月 [編集協力委員・項目執筆])、『岩波イスラーム辞典』(岩波書店、2002年2月 [項目執筆])、『新イスラーム事典』(平凡社、2002年3月 [項目執筆])、『イスラーム世界事典』(明石書店、2002年3月 [項目執筆])。

海野 一隆

①『ちずのこしかた』(小学館スクウェア、2001年12月、287+xix頁)、③「寛永年

間における幕府の行政査察および地図調製事業」(『地図』39-2、1~17頁、日本国際地図学会、2001年8月)、「司馬江漢署名入り銅版腐蝕『須弥山之図』の検討」(『洋学：洋学史学会研究年報』10、1~13頁、洋学史学会、2002年3月)、⑧「『神代巻口訣』は後世の偽作(上・下)」(『日本古書通信』66-6、4~6頁、66-7、4~6頁、日本古書通信社、2001年6・7月)、「薩摩藩士坂本廉四郎」(『随筆かごしま』127、100~106頁、随筆かごしま社、2001年8月)、「アフリカの月山」(『地図情報』21-2、14~15頁、地図情報センター、2001年8月)。

大江 孝男

③「中期朝鮮語—o/u—語幹の視点—「*ji₂zusun*」の意味—」(古稀記念刊行委員会編『梅田博之教授古稀記念 韓日語文学論叢』709~714頁、韓国ソウル 太学社、2001年4月)、「中期朝鮮語—o/u—語幹の視点—形態の対立と意味—」(『東洋学報』83-4、534~556頁、(財)東洋文庫、2002年3月)、⑧「ハングル」(河野六郎・千葉栄一・西田龍雄編『言語学大辞典別巻 世界文字辞典』760~773頁、(株)三省堂、2001年7月)。

大谷 俊太

③「面白がらすは面白からず—室町・江戸の和歌における作為と自然—」(『隔月刊文学』3-2、66~76頁、岩波書店、2002年3月)。

岡田 英弘

①『歴史の読み方』(弓立社、2001年4月、286頁)、『モンゴル帝国の興亡』(筑摩書房、ちくま新書314、2001年10月、254頁)、『この厄介な国、中国』(ワック株式会社、ワック文庫、2001年11月、254頁)、③『明治文明が作った現代中国』(『地球日本史3 江戸時代が可能にした明治維新』、扶桑社文庫3-3、440~456頁、扶桑社、2001年4月、再録)、“Breaking Arrows: How Did Alan Ghuaa Show Up in Sixteenth-Century Japan?” (*Altaic Affinities, Proceedings of the 40th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference (PIAC), Provo, Utah (1997)*, Indiana University Research Institute for Inner Asian Studies, Bloomington, Indiana, 2001, pp. 101-105)、「日本の国号」(『交詢雑誌』443、1~2頁、2000年9月20日)、「日本の国号はいつ決まったか?」(『大航海』40、14~15頁、新書館、2001年10月5日)、「歴史を持たない文明」同士の衝突」(『文藝春秋』10月緊急増刊号、90~93頁、文藝春秋社、2001年10月15日)、「モンゴル帝国に始まる歴史から読み解けば「アフガン戦争」は泥沼化する」(『SAPIO』12月19日号、28~30頁、小学館、2001年12月19日)、⑦“Original Version of the Mysterious *Toregut Rarelro*: Toyin Gelüng Gelugh Chogh-

dan's *Ünen süsüghtü qaghucin torghud ba, basa cing sedkiltü sin-e torghud ayimagh-un qaghan noyad-yin iledkil tüüki-yin bicig bui*" (43rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Lanaken, Belgium, Monday, 4, September, 2000), "The role of women in the *Erdeni-yin Tobchi*: The post-imperial period in particular" (44th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Walberberg, Germany 2001年8月29日)、「歴史とはなにか—資本主義経済の萌芽」(経営文化フォーラム、神田学会館、2001年9月19日)、「歴史とはなにか①」(あけぼの会、中野区立歴史民俗資料館、2001年9月26日)、「歴史とはなにか②」(あけぼの会、中野区立歴史民俗資料館、2001年10月24日)、⑧「歴史とはなにか」(山陽放送ラジオ、匂ネタよるよるラジオ、2001年3月13日)、「著者に聞く『歴史とはなにか』」(『週刊エコノミスト』5/22、毎日新聞社、98~99頁、2001年5月14日)、「私の生き方「よい歴史」と「悪い歴史」—世界史の統一的叙述をめざして」(『公研』39-7、38~52頁、2001年7月8日)、「学びへのいざない4時間目歴史」(『FIND』(FUJITSU) 19-5、3~5頁、2001年9月)、「75字で書くエッセイ 悪い歴史」(『ざっくばらん』(並木書房) 28-5、10頁、2001年5月1日)。

風間喜代三

②「デーヴァナーガリー」(『言語学大辞典』別刊『世界文字辞典』、三省堂、2001年7月)、④「印欧語族の源郷」(月刊『言語』特別号『言語の20世紀』、142~143頁、2001年1月)、⑦「語源研究について」(シンポジウム「語源研究を考える」討論・講師)、⑧「辻直四郎」(月刊『言語』特別号『言語の20世紀』、94~95頁)。

片山 章雄

②『大谷光瑞及び欧亜随従者・探検隊員送受現存書簡資料の整理と研究 第1分冊』(〈本多得爾監修〉、東海大学文学部歴史学科東洋史第2研究室、2002年3月、2+49頁)、③「1902年8月、大谷探検隊のロンドン出発」(『東海大学紀要 文学部』75、横1~20頁、東海大学文学部、2001年10月)、「大谷光瑞の欧州留学」(『東海大学紀要 文学部』76、横1~20頁、東海大学文学部、2002年3月)、④「吐魯番出土文書および関連伴出資料の調査」(〈町田隆吉と共著〉、『唐代史研究』4、148~165頁、唐代史研究会、2001年6月)、⑤「大谷光瑞の英文著作」(『東海史學』36、横13~26頁、東海大学史学会、2002年3月)、⑧「大谷探検隊の足跡 未紹介情報と蒐集品の行方を含めて」(『季刊文化遺産』11、30~33頁、(財)島根県並河萬里写真財団、2001年4月)。

川崎 信定

③「仏とは」（大法輪閣編集部編『仏教思想を読む—仏教の基本を知るために—』所収、大法輪閣、pp.8-14、平成13年9月10日）、「チベット大蔵経諸版成立史研究序説（資料翻訳篇）」（『東洋大学文学部紀要54集（印度哲学科篇26）東洋学論叢・田村晃祐教授退任記念号』、東洋大学文学部印度哲学科、pp.71-95、平成13年3月30日）、「バルドゥ（中有）を設定する意味—『チベットの死者の書』を通して考える—」（『平和と宗教』20、（財団法人庭野平和財団、pp.20-35、平成13年12月10日）、「『チベットの死者の書』と日本の四十九日法要」（『仏教講演会記録集』、伊勢崎・佐波仏教会、pp.1-36、平成13年12月15日）、「死を起点として捉えた生とは？—『チベットの死者の書』からのメッセージ—」（第368回一隅会例会講演、財団法人日本能率協会、pp.1-64、平成14年1月10日）、「『般若心経』以前・以後」（『平成12年度真言宗教学大会・第36回高野山安居会講義録』、高野山真言宗教学部、pp.243-328、平成14年2月22日）、⑤「ジョナサン・A・シルク著『チベット語訳〈般若心経〉2系統校訂テキスト』」（『東洋学報』82-3、pp.2-7、東洋文庫、2001年1月31日）、⑦「『チベットの死者の書』と現代日本」（2001年2月12日、ポタラ・カレッジ（チベット仏教普及協会東京センター）、「人間の知とそれを超える智慧—一切智研究の意味—」（第181回早稲田哲学会特別講演、平成13年6月9日）、「般若心経から見た仏教の思想」（真言宗豊山派教師研修会 平成13年11月7日）、「インド大乘仏教とチベット仏教」（2001年10月1日、10月22日、11月19日、11月19日、財団法人東方研究会・東方学院講義）、⑧「東洋大学東洋学研究所—「東洋」の名を冠した研究所—〈紹介・東洋大学附置研究所（2）〉」（『TOYO UNIVERSITY（東洋大学校友会報）』206、2001.2.1、p.13）、「『チベットの死書の書』からのメッセージ」（東洋大学東洋学研究所事業報告・研究発表例会11月25日、要旨：『東洋学研究』38、東洋大学東洋学研究所、平成13年3月30日、pp.139-140）、「インド哲学・仏教学・チベット密教」（『私大蛍雪』62、平成13年4月17日、旺文社、pp.12-13.）、「到れるものよ 到り着きたるものよ さとりよ（真理のことば）」（『Satya』42（2001／春季号）、東洋大学井上円了記念学術センター、平成13年4月20日、pp.18、19.）。

神田 信夫

⑤「G. Stary, "A Dictionary of Manchu Names [満州人名辞典]"」（満族史研究通信10、193~194頁、満族史研究会、2001年5月）、⑦「鑲紅旗檔の整理をめぐって」（満族史研究会第16回大会、2001年5月26日、於東京北区・北とびあ）、「駿台史学会の過去・現在・未来」（駿台史学会50周年記念大会、2001年11月17日、於明治大学駿河台校舎）、「山本達郎先生を偲んで」（東方学102、156-157頁、2001年7月）。

岸本 美緒

③「明清時代における『風俗』の観念」(小島毅編『多分野交流演習文集・東洋の人文を架橋する』、東京大学大学院人文社会系研究科多分野交流プロジェクト、2001年7月、103～132頁)、「雍正帝の身分政策と国家体制—雍正五年の諸改革を中心に—」(中国史学会編『中国の歴史世界—統合のシステムと多元的發展—』、東京都立大学出版会、2002年2月、269～300頁)、「妻可売否?—明清時代の売妻、典妻習俗」((李季樺氏訳)、陳秋坤・洪麗完主編『契約文書与社会生活(1600—1900)』、中央研究院台湾史研究所籌備處、2001年4月、225～264頁)、④「第十九回国際歴史学会議」(『東方学』102、2001年6月、110～117頁)、⑦「『秩序問題』与明清江南社会」((朱慶薇氏整理)、『近代中国史研究通訊』32、2001年9月、50～58頁)、⑧「妖僧大汕と広東の文人たち」(『岩波講座・東南アジア史・月報』3、2001年8月、1～3頁)。

草野 靖

③「魏晋南北朝時代における財政の發展—特に課調制について—(上)、(中)、(下)」(『福岡大学人文論叢』33-1、527～568頁、33-3、1965～2005頁、33-4、2505～2549頁、福岡大学研究推進部、2001年6月、12月、2002年3月)。

久保 亨

③「対外経済政策の理念と決定過程」(姫田光義編『戦後中国国民政府史の研究1945—1949年』235～261頁、中央大学出版部、2001年10月)、「關於民国時期工業生産総值的幾個問題」(『歴史研究』通巻第279期、2001年第5期、30～40頁、中国社会科学雑誌社、2001年10月)、⑤「籠谷直人著『アジア国際通商秩序と日本』」(『東洋史研究』60-2、342～349頁、東洋史研究会、2001年9月)、「中村哲著『近代東アジア像の再構成』」(『歴史評論』618、136～139頁、歴史科学協議会、2001年10月)、⑦The Change and Continuity in Twentieth-Century China's Economy「20世紀中国経済的連続性 vs 非連続性」(国際シンポジウム“Reinterpreting Twentieth Century China: New Perspectives”,「二十世紀中国之再詮釈」、香港、2001年6月7—9日)、China's Economic Development and International Order in Asia, 1930s—50s (Workshop on International Order of Asia in the 1930s and 1950s, London, 17th—18th September 2001)、「戦後日本に於ける中国近現代史研究」(第1回日韓歴史家会議、ソウル、2001年11月23—24日)、「周辺的要素の影響下における發展—近代中国企業経営史再考—」(研究フォーラム「周辺から見た20世紀中国」、対馬、2001年11月28—30日、要旨：『周辺から見た20世紀中国：研究フォーラム報告集』、34～35頁、20世紀中国研究会、2002年3月)、「重慶政府統治地域の経済統計について」

(重慶国民政府史研究プロジェクト第4回研究会、2001年9月21日、要旨：『重慶国民政府史研究Newsletter』5、1頁、2001年10月)、「興亜院とその中国調査」(日中関係史研究会、2002年1月26日)、⑧「歴史学研究会編『世界史年表』第二版」(岩波書店、2001年12月、(東アジア欄の編集執筆))、「彙報・平成12年度秋期東洋学講座講演要旨(興亜院の中国調査)」(『東洋学報』82-4、2001年3月)、「西川正雄ほか編『角川世界史辞典』」(角川書店、2001年10月、(中国近現代史関連項目の執筆))。

窪添 慶文

③「北魏的都督—従軍事面看中央与地方」(『中華民国史專題論文集第5屆討論會』、201~230頁、2000年12月)、「北魏の議」(『第1回中国史学国際会議研究報告集・中国の歴史世界—統合のシステムと多元的世界—』、東京都立大学出版会、201~226頁、2002年2月)、⑦「北魏の太子監国」(第6届中国魏晋南北朝史研究会年会暨国際学術討論會、2001年8月)。

熊本 裕

③ “The Concluding Verses of a Lyrical Poem in Khotanese”, *Harānandalaharī. Volume in Honour of Professor Minoru Hara on his Seventies Birthday*, ed. by Tsuchida Ryutarō and Albrecht Wezler, Dr. Inge Wezler. Verlag für Orientalische Fachpublikationen, Reinbek 2000, pp. 143-154 [2001]、 “Sino-Hvatanica Petersburgensia, Part 1”, *Manuscripta Orientalia*, Vol. 7, Part 1, 2001, pp. 1-5 [2001]、 「アヴェスタ文字」、『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂、pp.1-5 [2001]、 「パフラヴィイ文字」、『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂、pp. 749-751 [2001]、 「ブラーフミー文字」、『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂、pp. 851-875 (共著・熊本辞筆部分 pp. 851-852, pp. 861-875) [2001]、 「東洋文庫所蔵 St. Petersburg コータン・サカ語写本マイクロフィルム暫定目録」、『東京大学言語学論集』20, 2001, pp. 301-345 [2001]、 「西域諸語断簡集」、『東京大学所蔵仏教関係貴重書展—展示資料目録—』、東京大学附属図書館、p. 7 [2001]。

氣賀澤 保規

①『図説 三国志の世界』(劉焯原編著、大修館書店、2001年6月、207頁)、②『TUN-HUANG AND TURFAN DOCUMENTS concerning social and economic history [Supplement (補遺)]』(池田温・土肥義和・氣賀澤保規・岡野誠・石田勇作・妹尾達彦、(財)東洋文庫、2001年11月、(A) Introduction & Texts 篇168頁、(B) Plates 篇89頁)、③「九世紀の山東」(『アジア遊学』26、67~77頁、勉強出版)

版、2001年4月)、『洛陽伽藍記』我が青春の都、(および北魏洛陽図) (週刊朝日百科『世界の文学』103、92頁、朝日新聞社、2001年7月)、「西安碑林と『西安碑林全集』」(『図書の譜 明治大学図書館紀要』6、102~112頁、明治大学図書館、2002年3月)、④「中国文物研究所の紹介—墓誌・文字資料の整理刊行に関連して」(『唐代史研究』4、96~98頁、唐代史研究会、2001年6月)、「日本唐代史関連研究成果目録(2000年)」(共編、『唐代史研究』4、207~222頁、唐代史研究会、2001年6月)、『西安碑林全集』所収「唐代墓誌目録」(共編、『明大アジア史論集』7、132~144頁、明大東洋史談話会、2002年2月)、「夏期シンポジウム「墓誌史料の再検討」の報告」(『唐代史研究』4、201~202頁、唐代史研究会、2001年6月)、⑤劉編著・氣賀澤保規編訳『図説三国志の世界』(『月刊しにか』2001年10月号、130頁、2001年9月)、⑥「(監修)資料紹介・宋家鈺(徐建新訳)・明抄本北宋天聖『田令』とそれに附された唐開元『田令』の再校録」(『駿台史学』115、25~39頁、駿台史学会、2002年3月)、「趙超「中国古代石刻資料の世界—石刻学入門—」」(『明大アジア史論集』7、116~131頁、明大東洋史談話会、2002年2月)、⑦「試論隋唐時代皇后的地位—武則天上台歴史背景的考査」(北京大学古代史研究中心主催“唐宋婦女史研究与歴史学”国際学術研討会、2001年6月6日)、「中国史を駆け抜けた女たち」(明治大学公開大学(前期)、2001年5月~7月)、「三国志の時代を駆け抜けた人々」(明治大学公開大学(後期)、2001年10月~12月)、「則天武后の「感業寺」をめぐる—考察—石刻史料から見た—」(中国石刻文物研究会、2001年12月8日)、「遣隋使がみた隋の風景」((社)金鷄会市民講座・日本歴史講座「いま明かされる古代VI」、2001年12月15日)、「中国史にみる墨書土器—墨書(朱書)陶罐(陶瓶)」(駿台史学会50周年記念シンポジウム「出土文字資料研究の現在」、2001年11月18日)、⑧「中国史上最も多くの人肉を食らった男・朱粲」(『月刊しにか』2001-8、50~51頁、大修館書店、2001年7月)。

小松 久男

②『Stéphane A. Dudoignon and Komatsu Hisao eds., *Islam in Politics in Russia and Central Asia (Early Eighteenth to Late Twentieth Centuries)*』(Kegan Paul, London - New York - Bahrain, 2001, 19+375pp.)、『岩波イスラーム辞典』(岩波書店、2002年2月、1200頁(共編))、『Ishāq-khān Tūra ibn Junaydallāh Khvāja, *Mūzān al-Zamān*』(Tashkent-Tokyo, 2001, 53pp. (Islamic Area Studies Project: Central Asian Research Series No. 2)) (Bakhtiyar Babadjanov との共編、③「“Bukhara and Istanbul: A Consideration about the Background of the *Munāzara*,” Stéphane A. Dudoignon and Komatsu Hisao eds., *Islam in Politics in Russia and Central Asia (Early Eighteenth to Late Twentieth Centuries)*」(Kegan Paul, Lon-

don-NewYork-Bahrain, 2001, pp. 167~180)、[“Üç Ceddici ve Değişen Dü-nya,” Timur Kocaoglu ed., *Türkistanda Yenilik Hareketleri ve İhtilaller: 1900-1924*] (SOTA, Haalem, 2001, pp. 299~313)、[「中央ユーラシアの再イスラム化」板垣雄三編『「対テロ戦争」とイスラム世界』(岩波新書、2002年1月、51~80頁)、[「中央アジアのイスラム復興とアフガニスタン」広瀬崇子・堀本武功編『アフガニスタン：南西アジア情勢を読み解く』明石書店、2002年1月、125~143頁)、⑦「アンディジャン蜂起の残像」(日本中東学会第17回年次大会国際シンポジウム「現代シルクロードとイスラム復興」、龍谷大学大谷学舎、2001年5月12日、「Komatsu Hisao and Goto Yutaka, “Changes in the Ferghana Valley in the Twentieth Century,” *The Dynamism of Muslim Societies: Toward New Horizons in Islamic Area Studies*] (An International Symposium of the Islamic Area Studies. The Kazusa Arc, Kisarazu, 8 October 2001)、[「イブラヒムのユーラシア旅行：汎イスラム主義と日本」(東洋文庫秋期東洋学講座『旅と交流のイスラム世界』、東洋文庫、2001年10月30日、要旨：『東洋学報』83-4、62~63頁、「アンディジャン蜂起再考」(東洋史研究会大会、京大会館、2001年11月3日)、「A Century — Long Controversy on the Jihad of Dukchi Ishan (1898)” (*The Transmission of Learning and Authority in Muslim Northern Eurasia through the 20th Century*, An International Colloquium held by the CNRS, 13 November, Carré des Science, Paris)、[「中央アジアのイスラム復興エフェルガナ地方の動態を中心に」(イスラム地域研究公開講演会「イスラム地域研究のフロンティア」、龍谷大学大谷学舎、2002年2月2日)、「フェルガナ・プロジェクト中間報告」(第4回日本中央アジア学会ワークショップ、2002年3月29日、松崎町環境センター)、⑧「イスラム地域研究の試み：アラビア文字資料のデジタル画像化 マイクロフィルム化の再認識」(『月刊IM』40-9、2001年8月、10~14頁)。

佐伯 富

①『王應麟『小學紺珠』(卷八・職官類)索引』(本人手書複写、108頁、平成14年1月)。

佐藤 次高

②『西アジア』(世界各国史8、山川出版社、2002年3月、528+96頁)、③「イスラムの歴史と文化を知る」(『イスラムの誘惑』、新潮社、229~240頁、2001年4月)、“al-Yābānī” (*The Encyclopaedia of Islam*, new ed., p. 223, 2001年)、⑥「ジャネット・L・アブー＝ルゴド『ヨーロッパ覇権以前』(岩波書店、2001年11月、上264+23頁、下200+91頁)、⑦“Islamic and Middle eastern Studies in Japan”

Tehran University, 2001年7月24日)、“Western and Japanese Approaches to Islam”, The Iranian Institute of the Ministry of Foreign Affairs, 2001年7月28日)、“The Sufi Legend of Sultan Ibrahim b.Adham” (The 6th International Conference of History of Bilad al-Sham, Damascus University, 2001年11月12日)、「イスラームの歴史と現在」(新潟大学全学講義、2001年11月)、「日本人のイスラーム理解」(日本中東学会講演会、名古屋国際会議場、2001年12月)、「イスラーム世界の危機と安全—歴史の視点から—」(早稲田大学稲龍会講演会、2002年2月)、「イスラーム地域研究の夢と現実」(「イスラーム地域研究」公開講演会、龍谷大学、2002年2月)、“Western and Japanese Approaches to Islamic Studies” (University of California at Santa Babara and Berkeley, 2002年3月)、⑧「私のなかに吹く風」(『史学雑誌』110-7、35~37頁、2001年7月)、「ネットワーク化が進む日本のイスラーム学」(『本とコンピュータ』2002春号、150~155頁、2002年3月)。

斯波 義信

③「唐宋の都市化を考える」(東方学102、2001年7月、1~19頁)、④「フランス極東学院の近況、百周年記念事業および式典について」(東方学103、2002年1月、162~171頁)、⑥「ジャネット・L. アブー＝ルゴド著、佐藤次高、斯波義信、高山博、三浦徹訳『ヨーロッパ覇権以前』」(上(278頁)、下(291頁)、岩波書店、2001年11月)、⑧「学問の思い出—中嶋敏先生を囲んで」(東方学101、2001年1月、203~231頁)。

鈴木 立子

③「元朝福建地方の行省」(『愛大史学—日本史・アジア史・地理学』11、1~25頁、愛知大学文学部史学科、2002年3月)。

妹尾 達彦

①『長安の都市計画』(講談社、2001年10月、251頁)、②『*Tun-huang and Turfan Documents, Supplements (A)(B)*』(共編、東洋文庫、2001年、(A) iX+97+71+X頁、(B) xii+89頁)、③「詩のことば、テキストの権力—9世紀中国における科挙文学の成立—」(『中国—社会と文化』16、2001年6月、25~55頁)、「恋をする男—9世紀の長安における新しい男女認識の形成—」(『アジア史研究』26、中央大学文学部東洋史学科、2002年3月、43~66頁)、⑦「“才子”与“佳人”—九世紀中国的新的男女認識形成—」(“唐宋婦女史研究—与歴史学” 国際学術研討会、北京大学中国古代史研究中心、2001年6月6日)、「東南アジア史学の魅力」(東南アジア史学会関西部会、大阪市立大学、2001年10月20日)、⑧「長安とワシントンD.C.」(『本』

2001年10月、62～64頁)。

田村 晃一

- ①『楽浪と高句麗の考古学』(同成社、2001年4月、415頁)、③「渤海瓦当論再考」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』47-4、159～174頁、早稲田大学大学院、2002年3月)、⑦「山口正憲ほかと共著「ロシア・クラスキノ土城発掘調査概要報告」(『青山史学』20、1～31頁、青山学院大学史学科、2002年3月)。

クリスチャン・ダニエルス

- ①『中国少数民族事典』<田畑久夫・金丸良子・新免康・松岡正子・索文清との共著>(東京堂出版、2001年9月28日、244頁)、②『貴州苗族林業契約文書匯編(1736—1950年)』、第一巻<楊有廣・武内房司との共編>(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2001年3月31日、585頁)、『貴州苗族林業契約文書匯編(1736—1950年)』、第二巻<楊有廣・武内房司との共編>(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2002年3月26日、732頁)、③「東南アジアと東アジアの境界—タイ文化圏の歴史から—」(中見立夫編『境界を越えて—東アジアの周縁から』、山川出版社、東京、2002年3月、pp. 137～189)、⑤「加藤久美子著『盆地世界の国家論—雲南、シブソンパンナーのタイ族史』」(京都大学学術出版会、京都、2000年4月、『東南アジア—歴史と文化—』No. 30、137～141頁、2001年6月、東南アジア史学会)、⑦“Expansion of the Qing State into the Sipsong Panna Polity during the First Half of the 18th Century”(Centre of Asian Studies, The University of Hong Kong, China and Southeast Asia: Historical Interactions International Symposium 20th, June 2001)、「技術からみた地域の歴史—シャン文化圏」(京都大学東南アジア研究センター主催・2001年東南アジア夏期セミナー「東南アジアの歴史万華鏡—21世紀を見つめて」、2001年9月4日)。

立川 武蔵

- ①『「般若心経」の新しい読み方』(春秋社、2001年12月、282頁)、『*Puja and Samskara*』(共著者：日野紹運、L. Deodhar、Motilal Banarsidass, New Delhi, 2001年)、『*Indian Fire Ritual*』(共著者：S. Bahulkar, M. Kolhatkar, Motilal Banarsidass, New Delhi, 2001年)、③“The Sixteen Bodhisattvas in the Dharmadhatu Mandala”(Bulletin of the National Museum of Ethnology, 25-4, pp. 537～623, National Museum of Ethnology, 2001)、“The Introductory Part of the Kiranavali”(Journal of Indian Philosophy 29, pp. 275～291, 2001)。

竺沙 雅章

①『増訂版中国仏教社会史研究』（朋友書店、2002年1月、807頁）、③「中国史上の追善供養」（シンポジウム仏事法会と社会基調報告、『仏教史学研究』43-2、2001年3月、87～90頁）、「中国古版経について—宋代単刻本仏典と明清藏経」（『奈良県所在中国古版経調査報告書』、11～25頁、奈良県教育委員会、2001年3月）、「The Ci'en School during the Song and Yuan Periods」（*Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko* 59、23～48頁、(財)東洋文庫、2001年3月）、「宋代単刻本『法華経』について」（『汲古』40、21～27頁、汲古書院、2001年12月）、「日本における中国史学」（蔡毅編『日本における中国伝統文化』、11～22頁、勉誠出版、2002年3月）、⑦「漢訳大蔵経の歴史」（仏教大学仏教学会、2001年7月4日）、「大谷大学図書館の蔵書について—神田本と大蔵経—」（日本古文書学会、2001年10月27日）、「歴史の見方、とらえ方」（歴史シンポジウム基調報告、瑞穂町教育委員、2001年11月3日）、「那波利貞先生の敦煌文書研究」（ワークショップ草創期の敦煌学、2001年11月28日）、⑧「学問の思い出—日比野丈夫博士を囲んで—」（『東方学』103、183～21頁、(財)東方学会、2002年1月）。

鶴見 尚弘

②『公立短期大学五十年誌』（編集委員長、全国公立短期大学協会、2002年3月、385頁）、⑦「中国—近くて遠い国—」（山梨県立文学館、2001年6月26日）、「大学運営における事務職員の役割について」（第32回全国公立短期大学協会事務職員中央研修会、2001年7月27日、尚友会館）。

枳尾 武

③「成城大学図書館蔵『怪奇鳥獣図巻』における鳥獣人物図の研究稿」（『成城国文学論集』28、1～111頁、成城大学大学院、2002年3月）、⑤「伊藤清司監修・解説、磯部祥子翻刻『怪奇鳥獣図巻』（工作舎刊）を読む、2001、1、25」（『成城国文学』18、145～149頁、成城国文学会、2002年3月）。

烏海 靖

②『日本史総合年表』（加藤友康・瀬野精一郎・丸山雍成氏と共編、吉川弘文館、2001年5月、1109頁）、「日本近現代人名辞典」（臼井勝美・高村直助・由井正臣氏と共編、吉川弘文館、2001年7月、1181+203頁）、③『*Modern Japan's International Environment and Foreign Policy; from the Second Half of 19th Century to the Early 20th Century*』（*Understanding Japan 95*〈*Perspectives of Modern Japanese History*〉、p.p.38～48、(財)国際教育情報センター、2001年1月4日）、④「Modern

and Contemporary History」(渡辺昭夫氏と共同執筆、『*An Introductory Bibliography for Japanese Studies; Humanities* 1997～98』XII, Part 2, p.p.67～87、東方学会・国際交流基金、2001年11月)、⑦「日本の初等・中等学校教育における歴史教育と歴史教科書」(ロシア歴史教育会議、2001年5月21日、欧州評議会・ロシア沿海州教育委員会主催、ウラジオストックにて)、「日本の学校教育で極東ロシアはどのように教えられているか」(ロシア歴史教育会議地域主義教育分科会、2001年5月22日、欧州評議会・ロシア沿海州教育委員会主催、ウラジオストックにて)、「日本の近代化の歩みと国際摩擦」(韓国中学高等学校教員グループ日本招聘事業、2001年9月21日、国際交流基金主催)、「日本の歴史教科書の中のオランダ」(日蘭歴史・地理会議、2001年11月28日、国際教育情報センター主催)、「日本の歴史教科書の中のヴェトナム」(日越歴史・地理会議、2002年1月23日、国際教育情報センター主催)、⑧『日本歴史図集』((株)全教図、2001年4月、全16枚解説付、監修)、「保安条例発布・施行の年月日は？」(『本郷』33、8～9頁、吉川弘文館、2001年5月)、「防空壕を掘らせた母」(『諸君!』34-1、169頁、文藝春秋社、2002年1月)。

中野 真麻理

③「谷中道一『しのばずが池物語』のこと一」(岩波書店、『文学』2001年5・6月号、108～119頁、2001年5月)。

中見 立夫

② *Index to the Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St. Petersburg State University*, (Compiled by Vladimir L. Uspensky, Osamu Inoue and Tatsuo Nakami, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 2000, 186 pp.), *The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko, I Introduction and Catalogue* (Toyo Bunko Research Library 1), (co-ed. with Kanda Nobuo et al, the Toyo Bunko, 2001, xxxii+282 pp.)、『アジア理解講座①：境界を超えて～東アジアの周縁から～』(山川出版社、2002年3月、215頁)、③“С еменов и Монгольские войска” (*Проблемы и истории и культуры кочевых цивилизаций Центральной Азии*, Vol. IV, pp. 123-127., Улан-Улэ : Издательство БНЦ СО РАН, 2000)、“Russian Diplomats and the Mongol Problem of Independence in the Early 1910s”, (*Mongolica, an International Annual of Mongol Studies* Vol. 10 (31), pp.401-414., the International Association for Mongol Studies, 2000)、「稲葉岩吉博士と『百二老人語録』」(*Altai Hakpo* No. 11, pp.41-62., the Altaic Society of Korea, June 2001)、「川島浪速と北京警務学堂・高等巡警学堂」(『近きに在りて』39 [辛亥革命90周年記念特集：日本

における清末・民初史の研究]、316～325頁、野澤豊、2001年8月)、「中国第一歴史档案馆所蔵八旗都統衙門档案のなかの鑲紅旗関係案卷」(『平成11年度～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書：中華世界の成立—18世紀における狩猟・牧畜・農耕文化圏の接触と融合』、33～38頁、細谷良夫、平成14年3月)、④「海外満学節記」(『満族史研究通信』10、144～151頁、2001年4月)、「東アジアの社会変容と国際環境、平成12年度第1回(通算第15回)研究会、セミナー：清朝社会と八旗制—文書史料からのアプローチ」(『通信』120、37～38頁、アジア・アフリカ言語文化研究所、2001年7月25日)、⑦「近代モンゴルの王公と変わりゆく世界」(川村学園大学文学部史学科総合講座「さまざまな王」、2001年10月10・17日)、「東アジアにおける“実録”の編纂・出版と日本人」(文部科学省特定領域研究(A)「東アジアの出版文化の研究」第二回研究集会、2001年10月21日、要旨：『ナオ・デ・ラ・チーナ』3、21頁、2002年3月25日)、⑧「ホルヴァート」ほか項目執筆、(白井勝美、高村直助、鳥海靖、由井正臣編『日本近現代人名辞典』、吉川弘文館、2001年7月)、「稀有な史料集積地・台湾」(『琉球新報』、2001年12月28日)。

永積 洋子

①『朱印船』(日本歴史叢書、吉川弘文館、2001年10月、247頁)、⑦「日蘭関係史」(日蘭歴史・地理会議、主催者 財団法人国際教育センター、於国際文化会館、2001年11月28日、要旨：『日蘭学会通信』101、平成14年度1号、4～6頁、(財)日蘭学会、2002年4月)、「朱印船時代の日本とベトナム」(第2回考古学研究集会「考古学から見たオランダ東インド会社」・記念講演、昭和女子大学国際文化研究所、2001年12月1日)。

花田 宇秋

②「イスラーム世界の形成」(1・2・3節、『西アジア史I』(佐藤次高編)、山川出版社、2002年3月)、⑥「諸国征服史〈完〉(パラズリー)」(『明治学院論叢』668、173～264頁、2001年7月)。

林 俊雄

③「モンゴル高原北部の鹿石とヘレクスル」(『考古学雑誌』85-3、2000年2月、98～102頁)、「East West Exchanges as Seen through the Dissemination of the Griffin Motif” CsanadBálint, ed, *Kontakte zwisbceen Iran, Byzana und der Steppein* 6・7. *Jh. (Varia Archaeologica Hungarica IX)*, Budapest, 2000 (2001)、pp.253～265)、「騎馬遊牧民と黄金—黄金発見と盗掘の歴史—」(『季刊文化遺産』12、2001年10月、8～11頁)、『オクサス遺宝—ペルシアと草原の接点—』(『季刊文化遺産』1

2、2001年10月、26～27頁）、「フンの黄金文化」（『季刊文化遺産』12、2001年10月、56～60頁）。「中世遊牧民の黄金文化—テュルク系遊牧民の拡大—」（『季刊文化遺産』12、2001年10月、56～60頁）、④『スキタイに関する様々な問題—スキタイ研究の現状—』（『エルミタージュ美術館名品展—生きる喜び—』、日本経済新聞社、2001年7月、11～15頁）、⑥「ZHANG Yuzhong（張玉忠）：“Discoveries and Investigations of the Barrows in the Ili Basin”（*Bulletin of the Ancient Orient Museum* XXI（2000）：37～64（translated from Chinese into English））」、「K.Sh. タバルディエフ、O.A. ソルトバエフ著「天山山中のルーニック碑文を伴う岩画」（『シルクロード研究』3、2002年3月、41～49頁）、「S.G. クリヤシュトルヌイ著「中央天山で新たに発見された古テュルク・ルーニック碑文」（『シルクロード研究』3、2002年3月、51～56頁）。

原 實

② Ingalls Festschrift, Guest Editors : Minoru Hara and David Pingree (*Journal of Indian Philosophy*, volume 29 Nos 1 - 2 (pp. 1 ~ 312) April 2001 (Kluwer Academic Publishers, Dordrecht)), ③ “The Death of Hero” (*Journal of the International College of Buddhist Studies* 4 (Tokyo 2001) pp. 340~315 (1 ~ 2 6)), “Apsarases and Hero” (*Journal of Indian Philosophy* 29/ 1 - 2 (D. H. H. Ingalls Festschrift, Dordrecht April 2001) pp. 135 ~ 153), “A Note on the Sanskrit verb *pā-*” (Vidyārnava-vandanam, Essays in Honour of Asko Parpola (*Studia Orientalia* 94, Helsinki 2001) pp. 225 ~ 241), “Hindu Concepts of Anger : manyu and krodha” (*Le parole e i Marmi, Festschrift Raniero Gnoli* (Roma 2001) pp. 419 ~ 444), 「二つの性転換物語」（『田賀龍彦博士古稀記念論文集、仏教思想仏教史論集』、東京山喜房、pp. 1 ~ 15 (974 ~ 960)、2001年3月）、⑦ “Ashes” (*International Conference on Indian Studies* 19-23, September 2001, Jagiellonian University, Krakow, Poland)、⑧ 「In memoriam J.W. de Jong」 (*Journal of the International Association of Buddhist Studies*, vol. 24, Number 1 (Lausanne, 2001) pp. 1 ~ 5)、 「Wilhelm Halbfass 博士の長逝を悼む」（『印度学仏教学研究』49-2、2001、pp. 306 ~ 309）。

深沢 眞二

③ 「芭蕉の「閑」（『元禄文学を読む人のために』、73～92頁、世界思想社、2001年4月）、「内なる西行二題」（『会報』35、5～11頁、大阪俳文学研究会、2001年10月）、「連歌寄合書『随葉集』古活字版翻刻」（『近世初期文芸』17、94～148頁、近世初期文芸研究会、2001年12月）。

古屋 昭弘

- ⑤「李氏朝鮮訳学研究の高まり」(『東洋学報』83-1、84~90頁、(財)東洋文庫、2001年6月)、⑤「金文京ら訳注『老乞大』」(『中国語学研究・開篇』21、268~272頁、好文出版、2002年3月)、⑧「開篇と呉語」(『集報』27、1~2頁、早大中国文学会、2002年3月)、⑧「中国語教育者としての藤堂明保先生」(『日本の中国語教育』、11~12頁、日本中国語学会、2002年3月)。

堀 敏一

- ④『曹操—三国志の真の主人公』(刀水書房、2001年10月、241頁)、⑦「雑談—亭と亭長」(明治大学東洋史談話会報告、2002年3月)。

松村 潤

- ①『清太祖実録の研究』(東北アジア文献研究叢刊2、東北アジア文献研究会、2001年5月、110頁)、③「清太祖実録考」(*Journal of the Altaic Society of Korea*, No. 11、63~83頁、The Altaic Society of Korea、2001年6月)、⑧「榎一雄先生を偲ぶ」(『古代文化』54-3、京都・古代学協会、2002年3月、47~52頁)、「満州語文献探訪録」(『東方』248、2001年10月、2~5頁)。

三浦 徹

- ②『新イスラム事典』(日本イスラム協会監修、佐藤次高、三浦徹他編、平凡社、2002年3月、657頁)、③「ウラマーの自画像」(伊原弘・小島毅編『知識人の諸相：中国宋代を基点として』、勉誠出版、2001年4月、118~128頁)、「東アラブ世界の変容」(佐藤次高編『西アジア史I アラブ』、山川出版社、2002年3月、256~328頁)、“Personal Networks surrounding the Ṣāliḥiyya Court in 19th-Century Damascus”, *Etudes sur les villes arabes du Proche-Orient, XVle-XIXe siècle*, Damas : IFEAD, 2001 September, pp. 113~150., “Formality and Reality in Shari‘a Court Records : Socio-Economic Relations in the Ṣāliḥiyya Quarter of Nineteenth Century Damascus”, *The Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 59, 2002 March, pp. 109~141. “The Past and Present of Islamic and Middle Eastern Studies in Japan : Using the *Bibliography of Islamic and Middle Eastern Studies in Japan 1868-1988*”, *Annals of Japan Association for Middle East Studies* 17/2 (Special Issue : Middle Eastern and Islamic Studies in Japan), 2002 March, pp. 45~60)、⑥(佐藤次高、斯波義信、高山博との共訳) ジェネット・L・アブー＝ルゴド『ヨーロッパ覇権以前：もうひとつの世界システム』(岩波書店、2001年11月、上264+23、下200+91頁)、⑧「イスラムとの出会い」(『アジア遊学』30、2~9頁、

勉誠出版、2001年8月)、「近代の定位を巡って：『近代法の再定位』を読んで」(『創文』436、2001年10月、12～16頁)。

柳田 征司

③「母音連続の融合と非融合—今後の課題—」(日本語研究会編『日本語史研究の課題』、29～63頁、武蔵野書院、2001年10月)、「[ヲリ](居)の語源」(語源研究40、28～35頁、日本語語源研究会、2001年11月)、「抄物目録稿(原典、漢籍・史書)」(抄物の研究14、3～22頁、抄物研究会、2002年2月)、「抄物目録稿(原典、仏書『碧巖録』上)」(抄物の研究14、23～40頁、抄物研究会、2002年2月)、「日本語音韻史」(叙説28、1～9頁、奈良女子大学国語国文学会、2002年3月)、⑦「抄物」(吉田金彦他編『訓点語辞典』、122～125頁、東京堂出版、2001年8月)、⑧「日本語音韻史」(国語学会2001年度秋季大会公開講演、2001年10月)、「[ヲリ](居)の語源」(日本語源研究会、2001年11月)、「複合によって語中に生じた母音連続における母音の脱落(補正)」(国語語彙史研究会、2001年12月)。

山内 弘一

③「小中華を生きる—朝鮮王朝の知識人、両班士族—」(伊原弘、小島毅編『知識人の諸相—中国宋代を基点として—』、勉誠出版、2001年4月、94～106頁)、「十九世紀昌寧県『戸籍大帳』の事例分析—郷校、書院等—」(『上智史学』46、2001年11月、167～233頁)、④「朝鮮儒教研究の手引き—中国学・日本学の研究者にむけて—」(『漢文學解釋與研究』4、漢文学研究会、2001年12月、71～93頁)。

山崎 元一

③「古代インドの打刻印貨幣について—コーサンビー説の紹介を中心に」(『石上善應教授古稀記念論文集・仏教文化の基調と展開』第1巻、291～305頁、山喜房仏書林、2001年5月)、「仏滅年の再検討—論争史の回顧とベヒェルト説の批判—」(『三康文化研究所年報』32、1～29頁、三康文化研究所、2002年3月)、⑥「P・L・グプタ著『インド貨幣史—古代から現代まで』(共訳、刀水書房、2001年10月、305頁)、⑨「アショーカ王碑文の文字」(『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』、6～10頁、三省堂、2001年7月)。

山根 幸夫

①『続中国研究に生きて』(汲古書院、2001年8月、196頁)、『日本基督教団王子北教会40年史』(王子北教会、2001年5月、206頁)、②「増井経夫『大清帝国』校訂・解説」(講談社学術文庫、471頁、2002年1月)、『中山八郎先生追憶文集』(汲古書

院、2002年1月)、③「中国に設置された二つの図書館」(松原孝俊編『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本古典籍の書誌的研究』、121~142頁、科研費報告書、2002年3月)、④「2000年日本明代史論著目録」(『明代史研究』29、96~102頁、明代史研究会、2001年4月)、⑤「繆咏禾『明代出版史稿』」(『汲古』40、52~57頁、汲古書院、2001年12月)、⑦「戦前中国に設立された二種の日本図書館—天津日本図書館と北京近代科学図書館・上海日本近代科学図書館を中心に」(九州大学言語文化学院シンポジウム、2001年7月7日、九州大学六本松校舎)、「明代社会経済史の開拓者清水泰次先生」(第9届明史国際学術討論会、2001年8月25日、中国福建省武夷山市蘭秀飯店)、「満洲建国大学について」(国士館大学人文学会、2001年11月27日、国士館大学文学部)、⑧「島田虔次さんの思い出」(『明代史研究』29、5~8頁、明代史研究会、2001年4月)、「闘斗基教授を偲ぶ」(『明代史研究』29、12~14頁、明代史研究会、2001年4月)、「亡き人々を偲ぶ」(『明代史研究』29、71~75頁、2001年4月)、「中国の国際学術会議」(『歴史と地理〔世界史の研究〕』188、34~35頁、山川出版社、2001年8月)、「なつかしの思い出」(『越知谷小学校創立100周年記念誌』46~47頁、越知谷小学校創立100周年記念事業実行委員会、2001年11月)、「在りし日の中山八郎先生を偲んで」(『中山八郎先生追憶文集』、108~110頁、2002年1月)、「編集後記」(『汲古』39、45~46頁、汲古書院、2001年5月)、「編集後記」(『汲古』40、69頁、2001年12月)。

吉田 寅

②『日本書院版「歴史教育総目次」(共編、総合歴史教育研究会、2001年6月、196頁)、③「世界史教育と郵便切手の活用」(総合歴史教育37、67~72頁、2001年7月)、⑦「宋代の軍事財政と塩専売制度」(立正大学東洋史研究会、2002年2月15日)。

渡辺 紘良

③「中国国家図書館所蔵「京師全図」下絵について(1)」(獨協医科大学教養医学科紀要24、5~16頁、獨協医科大学教養医学科、2001年12月)、⑦「宋代科挙官僚の選任制度」((財)東洋文庫春期東洋学講座、2001年5月15日、要旨:『東洋学報』83-2、160~161頁、(財)東洋文庫、2001年9月)。

和田 恭幸

③『『法林樵談』の人名索引の典拠』(『藝能文化史』19、12~19頁、芸能文化史研究会、2001年8月)、「近世初期刊本小考」(『江戸文学と出版メディア』、278~291頁、笠間書院、2001年10月)、⑧「財団法人東洋文庫—善本規矩・珍本の幽篁—」(『文学』隔月刊2-3、岩波書店、2001年5月)、「下浦文庫調査目録」(『調査研究報告』

22、289～376頁、国文学研究資料館文献資料部、2001年11月)、「岩崎文庫貴重書書誌解題稿—古写本之部・古刊本之部補遺(二)—」(『東洋文庫書報』33、1～9頁、2002年3月)。

付表 財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(平成14年3月31日現在)

研究員名	研 究 課 題
荒 松 雄	南アジア史における民族・宗教と国家
飯 尾 秀 幸	中国古代国家史の研究
飯 島 武 次	殷周時代の考古学研究
池 田 温	中国古代・中世史、前近代東亜文化交流史
池 端 雪 浦	フィリピン史
石 井 米 雄	タイ史・三印法典の研究
石 塚 晴 通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石 橋 崇 雄	清朝政治史
市 古 宙 三	太平天国及び中国共産党の研究
井 上 和 枝	李氏朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
上 野 英 二	平安朝文学の研究
宇都木 章	春秋時代政治史
梅 田 博 之	現代朝鮮語の記述的研究
梅 村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
海 野 一 隆	東洋地理・地図学の研究
大 江 孝 男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
太 田 幸 男	秦墓竹簡の研究
大 谷 俊 太	室町・江戸時代文学の研究
岡 田 英 弘	北アジア史
小 名 康 之	インド・ムガル朝史の研究
風 間 喜代三	印欧語の比較言語学的研究
糟 谷 憲 一	18-19世紀朝鮮政治史の研究
片 山 章 雄	中央アジア古代史の研究
加 藤 直 人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究
辛 島 昇	南アジア史
川 崎 信 定	チベット仏教の展開
神 田 信 夫	清朝興起史
菊 池 英 夫	唐宋時代の行政および法制
岸 本 美 緒	明清時代地方社会史の研究
北 村 甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草 野 靖	宋代税財政史
窪 添 慶 文	魏晉南北朝時代史の研究
熊 本 裕	イラン語史の研究

研究員名	研 究 課 題
氣賀澤 保 規	魏晉南北朝隋唐時代の政治社会文化史研究
後 藤 明	イスラム社会と政治
小 松 久 男	中央アジア近代史
佐 伯 富	中国山西商人の研究
酒 井 憲 二	日本語の史的研究
桜 井 由躬雄	ベトナム史の研究
佐 竹 昭 広	中世日本文学の史的研究
佐 藤 次 高	西アジア・イスラム史
滋 賀 秀 三	中国法制史の通史的研究
蒨 部 勇 造	南アラビア古代史の研究
斯 波 義 信	中国社会経済史
清 水 宏 祐	セルジューク朝時代のイラン
志 茂 碩 敏	13・4世紀モンゴル政権の中核・中核について
新 免 康	東トルキスタン史の研究
杉 山 正 明	モンゴル帝国史の研究
鈴 木 立 子	元朝における社会経済史
妹 尾 達 彦	中国古代・中世都市史研究
武 田 幸 男	朝鮮古代・近世史の研究
立 川 武 蔵	チベット密教教理の研究
田 中 時 彦	日本の政治的近代化の研究
田 中 正 俊	中国近代社会経済史
C.A.ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
田 村 晃 一	東北アジアの考古学
竺 沙 雅 章	中国宗教社会史
千 葉 暎	宋代宮廷史
辻 本 裕 成	中古・中世日本文学の研究
鶴 見 尚 弘	明・清時代社会経済史の研究
朽 尾 武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土 肥 義 和	西域出土漢文文書の研究
鳥 海 靖	日本近現代史
中 嶋 敏	宋代史
中 野 真麻理	中世日本文学の研究
中 見 立 夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
永 田 雄 三	オスマン帝国社会経済史
永 積 洋 子	日本近世対外交渉史

研究員名	研 究 課 題
西 田 龍 雄	チベット・ビルマ語派の研究
萩 田 博	ウルドゥー語学・文学
長谷川 誠 夫	宋代官僚制の研究
八尾師 誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
花 田 宇 秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
林 佳世子	オスマン朝期中東社会史
林 俊 雄	中央ユーラシア史・草原考古学
原 實	インド古代文学の研究
深 沢 眞 二	連歌・俳諧の研究
福 田 洋 一	インド、チベットにおける仏教哲学・論理学
古 屋 昭 弘	中国語の音韻史的研究
星 實千代	現代チベット口語の研究
細 谷 良 夫	清朝政治史
堀 敏 一	中国古代都市文化
本 庄 比佐子	1920-30年代中国政治史
松 濤 誠 達	インド古代神話学
松 丸 道 雄	殷周金文の研究
松 村 潤	東北アジア民族史
松 本 明	中国隋唐政治史
三 浦 徹	イスラム都市社会史の研究
御 牧 克 己	チベット宗義書の研究
宮 崎 修 多	近世近代漢詩文の研究
森 安 孝 夫	古代ウイグル文書の研究
矢 澤 利 彦	西洋人の見た中国事情
柳 田 征 司	日本語の歴史的研究
柳 田 節 子	宋代社会経済史研究
山 内 弘 一	李朝史、朝鮮儒教
山 口 瑞 鳳	チベット史、チベット語文法、チベット仏教
山 崎 元 一	インド古代史
山 根 幸 夫	明代政治史・文化史、近代日中関係史
吉 田 寅	中国塩業史の研究
吉 田 光 男	朝鮮近世史
渡 辺 紘 良	宋代社会史の研究
和 田 博 徳	明清時代社会経済史の研究
和 田 恭 章	仮名草子および近世通俗仏書の研究

Ⅳ 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

①会議事項 (理 事 会)

- 第314回 開催日 平成13年6月5日(火曜日)
出席者 北村 甫、石井米雄、神田信夫、佐藤次高、斯波義信、鶴見尚弘
中根千枝、原 啓芳
委任状 岩崎寛彌、木田 宏、田中正俊、若井恒雄
- 第315回 開催日 平成13年6月5日(火曜日)
出席者 石井米雄、神田信夫、草原克豪、佐藤次高、斯波義信、田仲一成
鶴見尚弘、中根千枝、西田龍雄、原 啓芳
委任状 岩崎寛彌、若井恒雄
- 第316回 開催日 平成13年12月4日(火曜日)
出席者 斯波義信、石井米雄、神田信夫、草原克豪、佐藤次高、田仲一成、
中根千枝、西田龍雄、原 啓芳
委任状 岩崎寛彌、鶴見尚弘、若井恒雄

(評議員会)

- 第145回 開催日 平成13年6月5日(火曜日)
出席者 岡野 澄、中嶋 敏、松村 潤
委任状 奥島孝康、佐竹昭広、高木丈太郎、田部文一郎、鳥居泰彦
長尾 真、蓮實重彦、日比野丈夫、前田充明
- 第146回 開催日 平成13年12月4日(火曜日)
出席者 岡野 澄、岸本美緒、後藤 明、佐竹昭広、松村 潤
委任状 池端雪浦、奥島孝康、佐々木 毅、高木丈太郎、鳥居泰彦
長尾 真、前田充明、槇原 稔、間野英二

(東洋学連絡委員会)

- 前 期 開催日 平成13年5月22日(火曜日)
出席者 北村 甫(委員長)、尾崎 康、斯波義信、竺沙雅章、中嶋 敏
西田龍雄、森本公誠
議 題 1. 平成12年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 平成13年度財団法人東洋文庫事業計画について
3. その他
- 後 期 開催日 平成13年11月20日(火曜日)
出席者 斯波義信(委員長)、尾崎 康、中嶋 敏、西田龍雄、森本公誠
議 題 1. 平成13年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 平成14年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3. その他

②総務・広報事項

- ・平成13年10月 故山本達郎理事(平成13年1月24日逝去)のご遺族より寄附金500万円及び旧蔵書約18千冊の寄贈があり、謹んで受け入れさせていただきました。
- ・平成14年1月 閲覧者の利便を図るため、「文献資料複写規程」を全面改訂・実施いたしました。
- ・広報関係では、「東洋文庫要覧」(和文版・英文版)の全面改訂を実施し、また、インターネットによる公益法人のディスクロージャーに関する主務官庁の指導基準等に沿い、平成13年12月に当文庫の業務・財務等資料のインターネット公開を実施いたしました。

③設備・営繕事項

- ・新增設及び大口営繕事項はありませんでした。なお、期中実施した主要補修工事は、一部ボイラー補修、汚水ポンプ補修等であります。

2. 人 事 報 告

i. 役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
13. 6. 5	理 事 長	北 村 甫	退 任	
〃	〃	斯 波 義 信	就 任	
〃	理 事	木 田 中	退 任	
〃	〃	田 林 健	〃	
〃	評 議 員	田 中 健 部	〃	
〃	〃	中 蓮 嶋 實	〃	
〃	〃	日 比 野 重 彦	〃	
〃	理 事	草 原 丈 夫	就 任	
〃	〃	田 原 仲 一	〃	
〃	〃	西 田 龍 成	〃	
〃	評 議 員	池 端 雪 美	〃	
〃	〃	岸 本 緒 明	〃	
〃	〃	後 藤 木 毅	〃	
〃	〃	佐々 原 稔	〃	
〃	〃	横 野 英	〃	
〃	〃	間 野 二	〃	

ii. 東洋学連絡委員会委員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
13. 6. 5	委 員 長	北 村 甫	退 任	前理事長
〃	〃	斯 波 義 信	就 任	理 事 長

iii. 顧問異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
13. 6. 5	名譽顧問	北 村 甫	就 任	前理事長

iv. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
13.4.1	文庫長	井坂清信	就任	(定年退職) (〃)
〃	司書	瀧下彩子	就職	
〃	研究員(奨励)	高瀬奈津子	委嘱	
13.5.1	常勤嘱託	秋葉喜八	就職	
13.6.5	図書部長(兼務)	斯波義信	委嘱	
13.6.30	参事	吉田男佐武	退職	
13.7.31	研究員(専任)	本庄比佐子	〃	
13.8.1	研究員(兼任)	〃	委嘱	
〃	〃	大谷俊太	〃	
〃	〃	窪添慶文	〃	
〃	〃	熊本裕	〃	
〃	〃	桜井由躬雄	〃	
〃	〃	深沢真二	〃	
13.8.31	図書部長(兼務)	斯波義信	退任	
13.9.1	図書部長	田仲一成	就任	
14.3.31	司書	志茂碩敏	退職	
〃	研究員(専任)	福田洋一	〃	
〃	研究員(奨励)	高松洋一	退任	

v. 受章・叙勲

年月日	役職名	氏名	備考	区分
13.11.3	東洋文庫理事	中根千枝	受章	文化勲章 勲三等瑞宝章
〃	東洋文庫評議員	松村潤	叙勲	

3. 会 計 報 告

財団法人東洋文庫平成13年度収支計算書

〔 自 平成13年4月1日 〕
〔 至 平成14年3月31日 〕

(単位：千円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
経 常 費	172,848	科 学 研 究 費 補 助 金	46,000
人 件 費	142,797	維 持 会 費 収 入	35,250
事 務 費	30,051	寄 付 金 収 入	54,722
事 業 費	71,824	財 産 収 入	78,620
Ⅰ 調 査 研 究 費	15,216	研 究 活 動 収 入	7,605
Ⅱ 研 究 資 料 収 集 費	18,846	雑 収 入	968
Ⅲ 研 究 資 料 出 版 費	10,923	退 職 給 与 積 立 預 金 取 崩 収 入	34,381
Ⅳ 普 及 活 動 費	1,016	退 職 給 与 引 当 金 超 過 額 戻 入	2,476
Ⅴ 学 術 情 報 提 供 費	25,823	建 物 等 修 繕 積 立 預 金 取 崩 収 入	6,500
建 物 等 修 繕 積 立 預 金 繰 入	15,850	運 営 調 整 積 立 預 金 取 崩 収 入	19,000
周 年 記 念 積 立 預 金 繰 入	5,000		
運 営 調 整 積 立 預 金 繰 入	20,000		
支 出 合 計	285,522	収 入 合 計	285,522

(注) 上表は一般会計に関するものである

財団法人東洋文庫平成13年度貸借対照表（総括表）

（平成14年3月31日現在）

（単位：千円）

資 産 の 部		負債及び正味財産合計	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	18,677	流 動 負 債	1,855
固 定 資 産	5,260,891	固 定 負 債	57,549
（1）基 本 財 産	4,914,502	負 債 合 計	59,404
（2）その他の固定資産	346,389	正 味 財 産	5,220,164
資 産 合 計	5,279,568	負債及び正味財産合計	5,279,568

（注）一般会計のほか、特別会計・特定会計を含む

V 役 職 員 名 簿

平成14年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職	
理 事 長 理 事	斯 波 義 信	東洋文庫理事長	
	石 井 米 雄	神田外語大学学長 京都大学名誉教授	
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社社長	
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授	
〃	草 原 克 豪	拓殖大学副学長	
〃	佐 藤 次 高	東京大学教授	
〃	田 仲 一 成	日本学士院会員 東京大学名誉教授	
〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学学長 横浜国立大学名誉教授	
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授	
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授	
〃	原 啓 芳	東洋文庫総務部長	
監 事 評 議 員	若 井 恒 雄	株式会社東京三菱銀行相談役	
	種 田 公 二	株式会社パスコ前監査役	
	茅 野 静 逸	三菱金曜会事務局長	
	池 端 雪 浦	東京外国語大学学長	
	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授	
	〃	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
	〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	佐々木 毅	東京大学学長
	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	高 木 丈太郎	三菱地所株式会社相談役
〃	鳥 居 泰 彦	慶応義塾前塾長
〃	長 尾 真	京都大学学長
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授
〃	横 原 稔	三菱商事株式会社会長
〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学教授

2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫理事長
委 員	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	帝京大学教授
〃	興 膳 宏	京都大学名誉教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	日比野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学教授
〃	森 本 公 誠	東大寺執事長 華厳宗宗務長

3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W.T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職員

(平成14年3月31日現在)

部名	職名	氏名
総務部	部長	原 啓 芳
〃	課長	光 田 憲 雄
〃	会計係長	金 子 祐 子
〃	参事	中 沢 元 幸 橘 伸 子 藤 村 由 美 子
〃		長谷川 茂 広
〃	常勤嘱託	秋 葉 喜 八

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	佐 藤 次 高	東京大学教授
〃	研究員(兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学助教授
〃	〃	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	池 田 温	創価大学教授
〃	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学学長
〃	〃	石 井 米 雄	神田外語大学学長
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士館大学教授
〃	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学助教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	宇 都 木 章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
〃	〃	大 谷 俊 太	奈良女子大学助教授
〃	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	風 間 喜 代 三	東京大学名誉教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	辛 島 昇	大正大学教授
〃	〃	川 崎 信 定	東洋大学教授
〃	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	〃	菊 池 英 夫	北海道大学元教授
〃	〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
〃	〃	北 村 甫 靖	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	草 野 靖	福岡大学教授
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学教授
〃	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
〃	〃	酒 井 憲 二	調布学園短期大学名誉教授
〃	〃	桜 井 由躬雄	東京大学教授
〃	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
〃	〃	蓐 勇 造	東京大学教授
〃	〃	斯 波 義 信	東洋文庫理事長
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	〃	新 免 康	中央大学助教授
〃	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	〃	千 葉 契	桐朋学園大学名誉理事長

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	辻 本 裕 成	南山大学助教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学長
〃	〃	朽 尾 武	成城大学教授
〃	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
〃	〃	鳥 海 靖	中央大学教授
〃	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	永 積 洋 子	東京大学元教授
〃	〃	中 野 真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学専任講師
〃	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授
〃	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	深 沢 真 二	和光大学助教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀 敏 一	明治大学名誉教授
〃	〃	本 庄 比佐子	東洋文庫前専任研究員
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学学長
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	矢 沢 利 彦	埼玉大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	柳 田 征 司	奈良女子大学教授
〃	〃	柳 田 節 子	学習院大学元教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
〃	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	吉 田 寅 寅	立正大学元教授
〃	〃	吉 田 光 男	東京大学教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授
〃	〃	和 田 博 徳	慶応大学名誉教授
〃	〃	和 田 恭 幸	国文学研究資料館助手
〃	研究員(専任)	松 本 明 一	
〃	〃	福 田 洋 一	

部 名	職名	氏 名
図書部	部 長	田 仲 一 成
〃	東 洋 文 庫 長	井 坂 清 信※
〃	文 庫 長 補 佐	西 蘭 一 男※
〃	主 査	志 茂 碩 敏※
〃	閲 覧 係 長	中 善 寺 慎※
〃	副 主 査	牧 武 武※
〃	司 書	桜 井 徹 辺 見 由起子※
		山 村 義 照 沢 崎 京 子※
		篠 崎 陽 子 関 さやか※
		瀧 下 彩 子

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
総務部	豊田典子
研究部	愛甲恵子 青木雅浩 青柳かおる 石川博樹 石川美恵 井上直樹 岩永和子 大河原洋子 木下宗篤 現銀谷史明 小羽田誠治 佐藤秀信 澤井一彰 須賀加奈子 島谷泰子 清水敏江 清水保尚 清水裕子 鈴木健太郎 鈴木直子 高村武幸 谷家章子 露口哲也 中澤 中 長渡陽一 永瀬峰子 貫井万里 野田 仁 橋爪 烈 平田陽一郎 深見和子 福地智子 森田健太郎 熱 比燕
図書部	岩見 隆 上田直美 呉 吉煥 梶山智史 加藤良輔 清水一枝 藏世俊 高木雅弘 高田まゆみ 寺西澄子 外川和雅 深野明子 前島佳孝 日黒 輝

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

VI 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野に関する調査研究を、多角的な視点から国際的・学際的・継続的に実施し、かつインフォメーション・センターとして研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

1. ユネスコ協力事業

【概要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

【事業内容】

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、
濱田正美、堀 直、森川哲雄

(2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 2000-2001 に「Asian Research Trends の編集・出版」事業 (2-1) をもって参加した。

(3) 「日本の思想文献」情報提供

日本ユネスコ国内委員会の委嘱、株式会社安田総合研究所の後援により、同委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan”日本学術振興会 1959-1976年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、東洋文庫ウェブサイト内にホームページを設置し公開した。

2. 学術情報事業 -アジア・北アフリカ人文・社会科学関係-

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

【事業内容】

英文の年刊誌 "Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review" の編集・出版を行なった。本年度は No.12 (2002) を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載、あわせて下記「講演会・研究会の開催」(II -2-2-(2)-B) による講演を収録した。A5判変型。

本事業をもって上記「ユネスコ参加事業計画」(1-(2)) に参加した。また、本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセット(東京都町田市)に委託した。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、小松久男、佐藤次高、中里成章、濱下武志、
山内弘一、山崎元一

2-2. 国内外研究情報の収集

【概要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

(2) 国外研究情報の収集

(2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査

期間は下記のとおりである。

大韓民国：

藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習課副主幹）

4月26日－5月7日

大井 剛（センター調査外事室長）

4月26日－5月7日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウルおよび大邱、高霊、昌寧、慶州、釜山所在の研究機関を訪問した。あわせて、国立中央博物館において『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版（4-2-(3)）事業のための調査研究を行なった。

中華人民共和国：

三山 陵（センター共同研究員、日中藝術研究会主任研究員）

6月11日－6月21日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、上海および北京所在の図書館の訪問調査を、また開封における印刷技術の調査研究を行なった。

大韓民国：

藤井和夫（前 掲）

7月27日－8月4日

大井 剛（前 掲）

7月27日－8月4日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウルおよび大邱、慶州所在の研究機関を訪問し、出版事業のための調査研究を行なった。

ベトナム社会主義共和国：

三山 陵（前 掲）

10月5日－10月22日

本調査は、ベトナムにおける印刷文化に関する継続調査として行なわれ、ハノイ市およびその近郊所在の文化財とくに文献・印刷技術資料の調査研究を行なった。

大韓民国：

藤井和夫（前 掲）

11月2日－11月11日

大井 剛（前 掲）

11月4日－11月11日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウルおよび全州、光州、務安、扶餘、公州所在の研究機関を訪問し、出版事業のための調査研究を行なった。

大韓民国：

藤井和夫（前 掲）

1月4日－1月7日

大井 剛（前 掲）

1月4日－1月7日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、済州道所在の研究機関を訪問した。

中華人民共和国：

三山 陵（前 掲）

3月14日－3月26日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、北京等所在の図書館・美術館・

研究機関を訪問した。

(2)－B. 講演会・研究会の開催

諸外国の研究情報を得、研究者相互の交流を図るため、下記の講演会を開催した。

10月2日(火)

講師：李 熙 濬 韓国、慶北大学校人文大学教授

主 題：新羅装身具の新解釈

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：李準浩 東京大学大学院生

共 催：東北亜細亜考古学研究会

下記の研究会の開催に協力した。

11月28日(水)

講師：王 嗣 洲 中国、旅順博物館研究員

主 題：遼東半島考古学の新成果

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：徐光輝 龍谷大学国際文化学部助教授

主 催：東北亜細亜考古学研究会

(2)－C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度2-2-(2)-Bおよび2-2-(3)に記載した外国人研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記のとおりである。

de Voogt, A.J.

Professor, School of Asian, African, and Amerindian Studies, Universiteit Leiden, The Netherlands

Mairi Arbuckle Araki

Post Graduate Student, Edinburgh Univ., UK

Proshan, Chester

文化女子大学

金 吉 植

国立中央博物館考古部、ソウル、韓国

呉 永 贊

国立中央博物館遺物管理部、ソウル、韓国

李 泰 鎮

ソウル大学校人文大学教授、ソウル、韓国

白 忠 鉉

ソウル大学校法科大学教授、ソウル、韓国

鄭 印 燮

ソウル大学校法科大学教授、ソウル、韓国

李 賢 恵

翰林大学校人文大学教授、江原道春川、韓国

許 英 蘭

国史編纂委員会研究士、京畿道果川、韓国

Şahin, İlhan

Assistant Professor, Faculty of Letters, Istanbul University, Turkey

- Dhiravat Na Pombejra Lecturer, Dept. of History, Faculty of Arts, Chulalongkorn Univ., Bangkok, Thailand
- Leng Ten Moi (林冬妹) Librarian, Univ. Kebangsaan, Malaysia Library, Malaysia

(2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との協力のもとに学術交流事業を実施した。東京支部代表はジャン＝フランソワ・スーム氏(同学院研究員)である。

Soum, Jean - François membre contractuel, chargé de recherche, Section de Tôkyô, Ecole française d'Extrême - Orient (EFEO)

(3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

李 熙 濬 大韓民国、慶北大学校人文大学考古人類学科教授

平成13年9月24日-10月8日 韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解をはかるため招聘した。東京および北海道・群馬・長野・山梨の各県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

学術交流を目的として、海外の専門家を国内において、下記の通り招聘した。

金 在 弘 大韓民国、国立全州博物館学藝研究官

平成13年10月20日-10月26日 石川県立歴史博物館の招きにより来日中、韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。長野・群馬・東京・奈良・京都の各都府県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

王 嗣 洲 中華人民共和国、旅順博物館研究員

平成13年11月27日-11月28日 神奈川県立歴史博物館における特別展のために来日中、中国考古学・歴史学に関する日中の相互理解および東北アジア考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。横浜、東京において博物館および関係機関を視察し、研究交流を行なった。

(4) 研究普及

コンピュータネットワーク「インターネット」に公開している東洋文庫ウェブサイトにセンターのホームページを設置し、公開データ等を随時更新した。

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。

下記の機関において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館 (通年)

3. コンピュータネットワーク事業

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報をコンピュータネットワークを媒体として公開し、内外の研究者・研究機関に提供する。

3-1. 研究情報データベースの作成

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)事業において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、ディレクトリ・文献目録として編集する。

【事業内容】

(1) 国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。対象分野は次のとおりである。

①アジア歴史学、②アジア言語学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学

(2) 国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるために、資料の収集を行なった。対象分野は次のとおりである。

①中央アジア研究文献、②中東・イスラーム研究文献

3-2. コンピュータネットワークの形成

【概要】 上記「研究情報データベースの作成」(3-1)事業において編集した学術情報をコンピュータ通信をメディアとして公開し、コンピュータネットワークの形成に寄与する。

【事業内容】

(1) 東洋文庫ウェブサイトによる情報の提供

東洋文庫ウェブサイト(ホームページ)において、下記の研究文献目録のデータベースを公開した。

A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B 「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

(2) 文部科学省国立情報学研究所への情報の提供

文部科学省国立情報学研究所(旧文部省学術情報センター)の情報検索サービス

(NACSIS-IR) に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供した。

- A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」
- B 「日本における中東・イスラーム研究文献目録」
- C 「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」
- D 「日本における印度学仏教学研究ディレクトリ」

7月9日に上記のうちBのデータを、11月21日に上記のうちDのデータを更新した。

4. 重要文献の研究・保存事業

－アジア重要文化財(文献)の研究・保存－

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

4-1. アジア史料の研究・保存

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存し、研究を行なうとともに広く普及を図る。

【事業内容】

(1) 「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

「アジア史料叢刊」シリーズの一点として同書の編集・出版を行なった。本書は、フランス国立極東学院(E.F.E.O)所蔵の、19世紀初頭のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の原文を影印し、本文を英訳して解説と注釈とを加えたものである。注釈者は、マユリ・ガオシヴァトゥン氏およびプイパン・ガオシヴァトゥン氏である。史料および英訳の校閲は、嶋尾稔慶應義塾大学言語文化研究所助手による。

(2) 「繊維考古資料の研究」の編集・出版

同書の編集を進めた。本書は、中国・日本をはじめアジア各地に伝存し、または出土した絹・麻などの繊維製品の遺物を、主として自然科学的方法により分析した研究書である。著者は、布目順郎京都工芸繊維大学名誉教授である。

(3) 「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を行なった。本書は、朝鮮総督府時代（1911-1945年）に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料について「朝鮮古蹟研究会遺稿」全3巻として編集したものである。全体の構成は次のとおりである。

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅰ（新羅古墳）

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅱ（百濟・加羅古墳）

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅲ（楽浪漢墓）

編著者は、有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授、藤井和夫センター運営委員・実践女子大学講師である。

本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセットに委託した。

(4) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

5. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

- 前 期 開 催 日 平成13年 5 月22日（火） 10時30分－11時40分
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出 席 委 員 8 名 委任状10名
報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
3. 所長の再任について
議 題 1. 平成12年度事業報告及び決算報告について
2. 平成13年度事業計画及び予算案について
- 後 期 開 催 日 平成13年11月20日（火） 10時30分－11時25分
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出 席 委 員 3 名 委任状13名
報 告 1. 運営委員の委嘱について
2. その他
中根千枝運営委員の文化勲章受章について
議 題 1. 平成13年度事業中間報告及び収支状況報告について
2. 平成14年度事業計画案及び収支予算案について

顧 問 会 議

- 開 催 日 平成13年 5 月22日（火） 10時30分－11時40分
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出 席 顧 問 委任状 3 名
報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
議 題 1. 所長の推薦について
2. 平成12年度事業報告及び決算報告について
3. 平成13年度事業計画及び予算案について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
13年 4. 1	運営委員	宮崎 恒二	就任	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所長
4.18	運営委員	加藤 友康	就任	東京大学史料編纂所長
5. 1	顧問	白川 哲久	就任	文部科学省国際統括官
6. 5	運営委員	斯波 義信	退任	財団法人東洋文庫理事長
7. 1	所長	石井 米雄	再任	
7. 1	顧問	前田 充明	再任	財団法人国際学友会理事
7. 1	運営委員	池端 雪浦	再任	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
7. 1	運営委員	辛島 昇	再任	大正大学教授
7. 1	運営委員	佐々木高明	再任	財団法人アイヌ文化振興・研究推進 機構理事長
7. 1	運営委員	佐藤 次高	再任	東京大学大学院教授
7. 1	運営委員	竺沙 雅章	再任	京都大学名誉教授
7. 1	運営委員	戸川 芳郎	再任	二松學舎大學大学院教授
7. 1	運営委員	中根 千枝	再任	日本学士院会員
7. 1	運営委員	山崎 元一	再任	國學院大學教授
10.31	運営委員	桑山 正進	退任	京都大学人文科学研究所長
11. 1	運営委員	阪上 孝	就任	京都大学人文科学研究所長
11. 1	運営委員	田仲 一成	就任	財団法人東洋文庫図書部長
11. 2	運営委員	小西 正樹	退任	国際交流基金専務理事
11. 3	運営委員	永井 愼也	就任	国際交流基金専務理事
14年 3.31	運営委員	原 洋之介	退任	東京大学東洋文化研究所長
3.31	運営委員	立本 成文	退任	京都大学東南アジア研究センター 所長

C. 顕彰

年月日	役職名	氏名	顕彰
13年 11. 3	運営委員	中根 千枝	文化勲章

D. 会計報告

平成13年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成14年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
事 業 費	72,859	国 庫 補 助 金	69,800
ユネスコ協力事業費	879	財 産 収 入	0
学 術 情 報 事 業 費	14,887	雑 収 入	3,059
コ ン プ ュ ー タ ネ ッ ト	4,396		
ワ ー ク 事 業 費			
重 要 文 献 の 保 存 ・	7,070		
普 及 事 業 費			
人 件 費	45,446		
事 務 費	181		
計	72,859	計	72,859

6. 役 職 員 名 簿

平成14年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio (官職指定)。

A. 役 員

役職名	氏名	現職
所長	石井米雄	神田外語大学長、京都大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
顧問	岡野澄	東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
	白川哲久 E	文部科学省国際統括官
	平山郁夫 E	日本ユネスコ国内委員会会長
	藤井宏昭 E	国際交流基金理事長
	前田充明	財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
参与	長尾雅人	日本学士院会員、京都大学名誉教授
運営委員	池端雪浦	東京外国語大学学長
	石毛直道 E	国立民族学博物館長
	加藤友康 E	東京大学史料編纂所長
	辛島昇	大正大学文学部教授、東京大学名誉教授
	草場宗春 E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
	阪上孝 E	京都大学人文科学研究所長
	佐々木高明	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事長、国立民族学博物館名誉教授
	佐藤次高	東京大学大学院人文社会系研究科教授、財団法人東洋文庫理事
	立本成文 E	京都大学東南アジア研究センター所長
	田仲一成	日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
竺沙雅章	京都大学名誉教授	

役職名	氏名	現職
運営委員	戸川 芳郎	二松學舎大學大学院文学研究科教授、東京大学 名誉教授
	永井 愼也	E 国際交流基金専務理事
	中根 千枝	日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人 東洋文庫理事
	原 洋之介	E 東京大学東洋文化研究所長
	藤井 和夫	実践女子大学講師
	宮崎 恒二	E 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 所長
	山崎 元一	國學院大學文学部教授
山澤 逸平	E 日本貿易振興会アジア経済研究所長	

B. 職員

室名	職名	氏名
調査外事室	室長	大井 剛
	研究員	近藤 敦子
普及室	研究員	設楽 靖子
	参事	坂本 葉子
庶務会計室	室長	飯田 隆子
外国人専門員		John Wisnom

C. 共同研究員

氏名	現職
石丸 由美	慶應義塾大学非常勤講師
後藤 裕加子	バンベルク大学大学院博士課程
徐 光輝	龍谷大学国際文化学部助教授
田才 雅彦	北海道教育庁生涯学習部文化課調査班主査
十倉 桐子	
松尾 有里子	
三山 陵	東洋美術学校中国水墨画科講師

D. 臨時職員

平成13年4月1日から平成14年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

宇野陽子、木村暁、倉本尚徳、坂本祐子、鳥谷泰子、趙聖九、中島祥子、西田暢子、原山隆広、藤波伸嘉、益井岳樹、渡部良子

財団
法人 東洋文庫年報 平成13年度

平成14年10月1日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫
斯波義信

印刷所 株式会社 デイグ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫
